

GP ロンドン 2016 参加記



2016/10/7 (金) -2016/10/9 (日)

エクセル展覧会センター

目次

この本について	3	大英博物館へ	18
GP ロンドン 2016 について	3	大英博物館を堪能	18
GP ロンドンに行けるじゃないか！	3	スプレー紅茶の搜索（失敗篇）	19
英国まで行くのなら	5	ホテルにチェックイン	20
英国内の鉄道路線を確定	5	初フィッシュ＆チップス	21
ポートメイリオンのホテルを予約	7	食後、就寝	22
下調べ	7		
飛行機と市内のホテルを確定	7		
水曜の宿を追加予約	9		
2016 年 10 月 4 日（火）		2016 年 10 月 7 日（金）	
出発日	9	GP ロンドン開始の朝	23
		カスタムハウス駅へ移動	24
		会場へ移動し朝食	25
		メガミニマスター	26
		LCT シールド	26
		スプレー紅茶の搜索（接触篇）	28
2016 年 10 月 5 日（水）		スプレー紅茶の搜索（発動篇）	29
アブダビ空港	10	S I M 通信データ枠の追加購入	30
ロンドン到着	10	夕食を取って就寝	31
市内に移動	11		
牢屋入り	12		
ロンドン市内の巡回	13	2016 年 10 月 8 日（土）	
SOHO で夕食	14	GP ロンドン本戦初日	32
ホテルに戻り、寝る	15	会場到着	32
		構築開始	32
		本戦開始	34
2016 年 10 月 6 日（木）		ウエストフィールドへ	35
ホテルの無料朝食	16	スマホの通信データチャージに成功	35
ホテルをチェックアウトしてキングスクロス駅へ	17		

カジノで勝つ	36
フードコートで夕食	37
ホテルに戻って寝る	37

2016年10月9日（日）

スーパーサンデーシールドの朝	38
朝食を済ませて会場入り	38
スーパーサンデーシールド	39
カードを売る	41
エターナルマスターズシールド	42
GPのお持ち帰り品	44
ホテルに戻って終了	44

2016年10月10日（月）

ポートメイリオン行きの朝	46
ユーストン駅で待つ	46
チェスターへ	48
スランディッドノ・ジャンクションへ	48
ブライナイ・フェスティニオグへ	49
ポートメイリオン行きのバスに乗る	49
ポートメイリオンに到着	50
ホテルからの車に乗りチェックイン	51

ポートメイリオンに滞在中の内容は、本書の姉妹同人誌「村の調査報告書」中に掲載いたしました。

ご興味のある方は是非そちらをお求めください。

2016年10月11日（火）

ポートメイリオンでの朝	52
朝食を済ませてチェックアウト	52
ボルスマドクまで車で	53
蒸気機関車に乗車	53
蒸気鉄道の旅	54
スランディッドノ・ジャンクションまで戻る	54
マンチェスター・オックスフォード・ロードへ	55
ノッチングムへ	55
フーターズへ	56
フーターズで夕食	56
フーターズで粘って、出る	57
ロンドンに戻る	57

2016年10月11日（火）

ヒースロー空港に移動	58
ターミナル4への移動手段なし	58
朝まで生ターミナル3	59
ターミナル4へのバス	60
ターミナル4でチェックイン待ち	60
搭乗手続き	61
現金使い切り	61
アブダビ空港へ	62

2016年10月12日（水）

いよいよ日本へ	63
帰国	63

この本について

本書は2016年10月7日（金）～9（日）にかけロンドンで開催されたマジック・ザ・ギャザリングのグランプリ（GP ロンドン 2016）に、プレイヤーとして参加した筆者の旅行記録です。現地の金額表記は原則として通貨の£（ポンド）で行いました。

英国のユーロ離脱に伴い£は急落し、円高傾向もあって1£は9月の頭には140円弱でしたが10月には130円を割りました。ただし決済の関係で実際には1£=135円くらいで実質使用したのですが。

GP ロンドン 2016 について

本書を手取るような方であればおよそ説明の必要はないとは思われますが、GP（Grand Prix; グランプリ）というのは、1年に50回くらい世界のあちこちの都市で開催されているカードゲーム「マジック・ザ・ギャザリング」の大会です。世界中から500-3000人くらいのプレイヤーが集まって、日本でも1年に4回ほど開催されます。

GP ロンドン 2016（※1）は、ロンドンで2016年に開催された大会になります。Channel Fireball（※2）が主催しました。

※1 <http://www.gplondon2016.com/>

※2 <http://store.channelfireball.com/landing>

GP ロンドンに行けるじゃないか！

基本的に筆者は、近場（※1）の海外のリミテッド（※2）GPにはお金や有休に余裕があれば参加することをパターンにしているのですが、これまで欧州のGPは行ったことはありませんでした。一番の理由は、アジアのGPならば金・月の2日の有休を取れば無理なく参加できますが、欧州のGPは移動時間の関係から最低でも前後の2日ずつの4日の

有休を取らないとキツく、1回のGPにそんなに有休は使えなかったからです。

このため2015年の8月に「2016年のGP予定」が発表されてから10月21日（金）～23日（日）のGPクアラルンプールには行くことを決めすぐ飛行機やホテルは予約したものの（GPクアラルンプール2016本参照）、その2週間前のGPロンドンがリミテッドではあるものの行く予定はまったく立てていませんでした。

ところが事情により筆者は2016年の8月末で、それまで7年勤めた某社を次の就職先を決めることなく辞めることになりました。このため9月以降どのように生活費をやりくりしたり再就職先を探すかという大問題はあったものの、とりあえずお金は不十分ながら、9月以降は時間は十分に作れる状況になりました。

そして8月末にGPクアラルンプールや9月9日（金）～12日（日）のGP京都の計画を立てているうちに「待てよ」とそのことに気がついたわけです。

GPロンドンは新セット「カラデシュ」発売後のリミテッドGPであり、そしてChannel Fireballの主催でもある。これは楽しそう！そしてこれまではロンドンに行かなかった一番の理由は有休を十分に使えないことだが、もうそんなものは関係ない。つまり。

「いやいやいやいや**来月から無収入になる**のにいまから再来月に新たに海外旅行を入れるとか、さすがにないでしょ」と一度は自分でも否定したものの、念のためふとExpedia（※3）でGPロンドン期間の飛行機とホテルを検索すると、最安値は8万円を切ってます…あれ、これなら十分行けるんじゃないか？ということで検討を開始しました。もちろんこれから無収入になるけど、とりあえずこの程度のお金は出せる。何より確かに今は無職だが気力体力は充実しており、少なくともいずれは職を決めて働くつもりだし、必要なら9月にアルバイトをしたっていい。お金を理由に断念は止めよう。

そしてそう考えると、いま日数を気にせずにロンドンに行けるのはむしろ**千載一遇のチャンス**ではないかと気がつきました。

※1 飛行機でせいぜい半日くらいの旅費の低い所。海外は中国や赤道のあたりまで。豪州や米国や欧州は圏外。

※2 筆者は「プレイヤー」としては構築はそれほど興味はありません。

※3 <https://www.expedia.co.jp/>

英国まで行くのなら

そういうわけで GP ロンドンに行くことを前提に計画を立て始め、同時に英国に行くなら他に行きたいところはないかと考えてポートメイリオン（Portmeirion）行きを決めます。

これは本書の趣旨とはまったく関係ないのですが、筆者は 1967 年の BBC のドラマ「プリズナー No.6」が大好きで、その舞台になったポートメイリオンには一度行きたいと思っていたのでした（※1）。そのドラマに関係のある滞在部分については、別の「村の調査報告書」という同人誌にまとめましたので本書では割愛します。

加えて英国のフーターズを調べた結果、ロンドンにはフーターズは無く、ノッチングラムに唯一のフーターズがある（※2）ことを知ったため、英国鉄道のサイト（※3）で路線図を見て、帰りにノッチングラムに寄ることを検討します。

またポートメイリオンのアクセスを調べて「途中で**蒸気鉄道**を利用できる」との記述を発見したため、サイト（※4）を見たうえでこれを利用することにします。

※1 <http://www.portmeirion-village.com/visit/access-guide/>

※2 <http://www.hootersnottingham.co.uk/index.html>

※3 <http://www.nationalrail.co.uk/>

※4 <http://www.festrail.co.uk/>

英国内の鉄道路線を確定

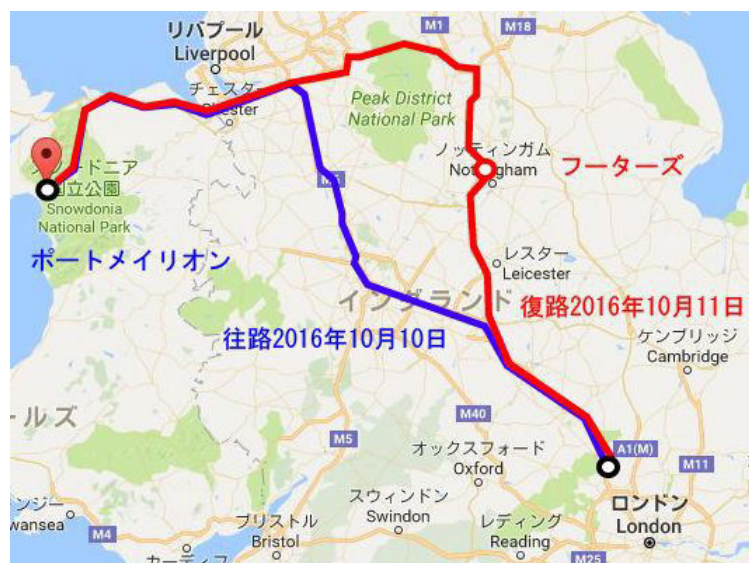
ロンドンとポートメイリオンとノッチングラムの間はいずれも鉄道で数時間の距離であり、ポートメイリオンは月曜から一泊二日で楽しむことにしたうえで、蒸気鉄道を1回は利用することにして、帰りにノッチングラムにも寄って…とプラン検討を開始し、おもに昼間2-4本しかない蒸気鉄道をベースに英国鉄道のサイトで行きと帰りのプランを確定。英国では予約をしたほうが券は確実に安いようであるため、選べる鉄道会社の中から Virgin Trains で購入。総費用 £ 184.5 ほどになりました。結構しましたが仕方ないですね。

《行き：10月10日（月）》

10:10	London Euston 駅（EUS） 発	2 時間 3 分の旅
12:13	Chester 駅（CTR） 着	乗り換え 11 分
12:24	Chester 駅（CTR） 発	48 分の旅
13:12	Llandudno Junction 駅（LLJ） 着	乗り換え 18 分
13:30	Llandudno Junction 駅（LLJ） 発	1 時間 2 分の旅
14:32	Blaenau Ffestiniog 駅（BFF） 着	駅でホテルに電話
不明	ホテルのタクシーでポートメイリオンへ	至福の時間の始まり

《帰り 10月11日（火）》

不明	ポートメイリオンからバスで Porthmadog（PTM） へ	詳細はホテルで聞こう
10:05	Porthmadog（PTM） 発（蒸気鉄道！）	1 時間 15 分の旅
11:20	Blaenau Ffestiniog 駅（BFF） 着	乗り換え 15 分
11:35	Blaenau Ffestiniog 駅（BFF） 発	58 分の旅
12:33	Llandudno Junction 駅（LLJ） 着	乗り換え 20 分
12:53	Llandudno Junction 駅 発	1 時間 55 分の旅
14:48	Manchester Oxford Road 駅（MCO） 着	乗り換え 51 分
15:39	Manchester Oxford Road 駅（MCO） 発	1 時間 48 分の旅
17:27	Nottingham 駅（NOT） 着（フータースタイム！）	4 時間 5 分
21:32	Nottingham 駅（NOT） 発	2 時間 6 分の旅
23:38	London St Pancras Intl 駅（STP） 着	



ポートメイリオンのホテルを予約

ポートメイリオンの宿を Expedia（※1）と Booking（※2）の双方で調べると、**同じ1つのホテル**しかヒットしません。割といい値段ですが選択の余地なし（※3）。そこで Expedia と Booking で 10 月 10 日（月）の一泊を比較し、“Village”の部屋が Booking でキャンセル不可の £ 129 が最安値であることを確認のうえで、ぽちりました。

※1 <https://www.expedia.co.jp/>

※2 <http://www.booking.com/index.ja.html>

※3 <https://www.booking.com/hotel/gb/the-portmeirion-castell-deudraeth.ja.html>

下調べ

先の計画では、ポートメイリオンの到着予定は月曜の 15 時、そして翌朝 9 時にはポートメイリオンを去らねばならない模様。この日の英国の日没は 18 時過ぎで、日の出は 7 時過ぎであることを考えると、おそらく月曜の 3 時間くらいしか昼間に撮影の時間はなく、これはやみくもに歩いては案外すぐ過ぎてしまうかもしれません、このためあらかじめ Google StreetView で可能な限り村のなかをつぶさに眺めて、「プリズナー No.6」でのめぼしい作中の画像をピックアップしたうえ、そこを StreetView と比較して撮影箇所を特定したうえで、まず現地ではそこで撮影するというアプローチを取ることにしました。

飛行機と市内のホテルを確定

鉄道の時間から「11 日（火）深夜ロンドンに戻る」プランが確定したので、ここで寝るだけの別のホテル 1 泊を取るよりは、そこから空港まで直行し 12 日（水）に現地を発つプランとし、行きはロンドン市内観光を 1 日入れての 5 日（水）水曜到着と決めます。日本とロンドンの直行便は値段的に困難なのでパスしつつ、あまり乗り換えでは待たない

便を安いものから選んでいくと、エティハド航空というのが良さそうでした。

《往路》 ※日時は日本・アブダビ・英国の現地時間です

10月4日（火）	21:20	成田発	エティハド航空 871 便	フライト 12 時間 15 分
10月5日（水）	4:36	アブダビ着		3 時間 24 分待ち
10月5日（水）	8:00	アブダビ発	エティハド航空 19 便	フライト 8 時間 5 分
10月5日（水）	13:05	ヒースロー着		

《復路》 ※日時は日本・アブダビ・英国の現地時間です

10月12日（水）	9:35	ヒースロー発	エティハド航空 12 便	フライト 7 時間 35 分
10月12日（水）	20:10	アブダビ着		1 時間 55 分待ち
10月12日（水）	22:05	アブダビ発	エティハド航空 878 便	フライト 10 時間 10 分
10月13日（木）	13:15	成田着		

次は市内のホテルです。そこで改めて G P ロンドンの会場を確認すると、その「ExCeL 展覧会センター」という場所は、ロンドン市内地図には載っていないくらいに東のはずれでした。そしてエクスペディアや Booking で調べた限り、この会場近くは安宿はないかまたは GP 開催期間中はすでに売り切れてしまったようでした。

仕方ないのでそこからなるべく近くの安宿をと思って探すと北にストラトフォードがあり、そのウエストフィールド・モールには**カジノ**がある模様。よしストラトフォードで決定（笑）。モールのあるあたりは高い宿しかないものの、ストラトフォードの付近の安宿を調べた結果の中から「The Hub」という安宿にしようと決めます（※1）。

結果、フライトと宿は Expedia 支払い 80816 円（確定）で済みました（よっしゃ！）

あとは忘れてはいけない GP 本戦の参加申し込みも済ませました（£ 60）。

なお GP ロンドンには今回は「VIP」オプションはなかったようでした。

※ 1 <https://www.expedia.co.jp/London-Hotels-The-Hub.h15520160.Hotel-Information>

水曜の宿を追加予約

エクスペディアでは旅券とホテルをセット割（安い）で注文し、この結果としてホテルは水曜～日曜まで5泊を注文したわけですが、このホテルはロンドン市の中心からいささか離れており水・木は市内観光を予定していたうえではいささか微妙でした。

そこに出発前にK澤さんが「こんなのありますよ」と**刑務所**を改造した面白激安ホテル（※1）を紹介してきたことから、このプランに乗る形で水曜の宿を市内で追加予約。

当日の行動時間や、駅で荷物を預けたりする料金などを考えれば高くありません。

予約した宿の水曜日は明白に不要になったものの、エクスペディアに聞くと「いったんキャンセルするとかえって追加料金がかかる」ため、これはスルー。せめてホテルに連絡して「水曜の金は払うけどチェックインは木曜」と伝えようとするも、エクスペディアのメッセージがうまく送れず。ま、当日現地で説明すればいいか…。

※1 <http://sazanami.net/20130519-london-clink78-hostel/>

2016年10月4日（火） 出発日

16時過ぎ、カラコロを引いて家を出て最寄の駅までのバス停まで。

タイミング悪く前日あたりから右の奥歯がひどく痛んでいたものの、ここで10日空けるのでは十分な治療が受けられないので痛み止めと化膿止めだけ貰って成田へ向かう。

バスが普通に10分遅れた結果、16:49新小岩発のエアポート成田を落とすも、もともと17:22発のエアポート成田で間に合うプランを組んでいたので問題ない。帰宅ラッシュの時間なので津田沼まで座れなかったものの18:42に成田空港駅に到着。エティハド空港のチェックインも済ませる。旅行鞆はロンドンまで直送。

歯の状態もいまいちであり金をかけた夕食にしても仕方ないので、コンビニおにぎり。

せっかく前日買った今治水も家に置き忘れたので、空港駅の薬局で追加購入。

20時前にセキュリティとイミグレを通過して、ゲート37に到着。

30分ほど予定より出発が遅れたようだが、どうせ待つだけなので気にしない。21時前に搭乗し、なにごともなく離陸。眠かったのを幸い、機内で熟睡。

2016 年 10 月 5 日（水） アブダビ空港

成田からアブダビまでは 12 時間ほどの旅。正直、ただ寝ているにもいささか長い。

機内エンターテイメントでは、観てない映画は日本語がないのばかりであまり楽しめません。一番面白かったのは LEGO のドキュメンタリー（英語）でした。



日本時間 7 時過ぎに機内灯がついて朝食になりオムレツをいただく。ただしこの頃は歯の痛みで常時今治水をつけている状態だったので食事はさほど楽しめませんでした。

日本時間の午前 9 時にアブダビ空港着（アブダビ時間では午前 4 時）。ここで 4 時間ほどロンドン行きの便を待つしかありません。空港の FreeWifi がそこそこ使えたのでネットなどして時間を潰すうち、さすがに夜が明けてきて小腹もすいてきたので財布の 2 千円を現地通貨（UAE ディルハム）に両替してコーラとポテトチップなどを買って軽く飲み食い。レートは不明ですが気にしても仕方ありません。

成田でアブダビ-ロンドンへのチケットは発行されなかったものの、成田で Web チェックインした際のプリントアウトを見せたら、それをスキャンして問題なく搭乗。

日本時間午前 11 時（アブダビ時間午前 8 時）にロンドンに発ちます。

ロンドン到着

アブダビからロンドンまでは 8 時間ほどの旅。ヒマを潰しつつ睡魔が来たら素直に寝る。

機内設備やエンターテイメントの質は前の機よりこっちのほうがかなりいいです。

離陸してすぐ「朝食」が出て、さらにその数時間後に「昼食」のチキンサンドが出ます。

そして日本時間 21 時（ロンドン時間 13 時）に、ロンドンのヒースロー空港に到着。

完全に昼夜逆転した一週間の始まりです（ここからロンドン時間で記します）。



イミグレと荷物回収を終えて、自動販売機で EE（現地キャリア）の SIM カードを購入。本当は一週間データ使い放題プランで購入したかったのですがそれらしいものが見当らず相談・設定をして貰えそうなキャリアの販売カウンターありません。やむを得ないのでデータを使い切ったら市内で追加課金をすることにして、データ通信 500MB のパックを購入してセット。追加チャージがうまくできるかどうか不安だったものの、通信を確保。

市内に移動

ともあれまずは、荷物もあるので市内に移動してホテルにチェックインしてしまうことにします。エディハド空港はヒースローのターミナル 4（他のターミナルより少し遠い）を利用するので、事前調査プランに従い空港バスのステーションまでは無料バスで移動してからピカデリー線への乗車を考えたのですが、さっそくそのバス停を探して**迷います**。結局、荷物を引いてターミナル 4 内を行ったりきたりの迷走の末にターミナル 4 の地下鉄駅を発見して、本数こそ少ないもののここからもピカデリー線が普通に市内に行くことに気がついたので「別にこれでいいじゃん」と計画変更。

そこで自動販売機でオイスターカード（ロンドンの IC カード）を購入してから、料金を追加してゾーン 6（ヒースロー空港ターミナル 4 駅）からゾーン 1（キングスクロス駅）までの片道切符を購入します。

あとはピカデリー線でキングスクロス駅まで 1 本です（1 時間くらいかかりました）。

キングスクロス駅を降りるなり今度はオイスターカードに「ゾーン1からゾーン3までは一週間乗り放題」のチケットを購入して登録します。これで今から市内の地下鉄とバスは来週火曜までは値段を気にせず乗り放題になりました（これはやはり買って正解でした）。

当初の「理想プラン」ではここでホテルの最寄り駅まではバス（8分）を利用する予定だったもののまったく地理の分からない巨大な駅で荷物を引きながらシステムを掌握していないバス路線での目的のバス停を探すチャレンジなどは秒で諦めて、タクシーを拾って行き先の住所を示します。

タクシーはほどなく目的のホテル「Clink78」へと到着したので、中に入って£21（安いね）を払いチェックイン完了。



牢屋入り

チェックインを済ませて部屋へ。刑務所を改造した自分の部屋は、2段ベッドが2つある4人部屋であり小さい窓頼りの採光はほぼ真っ暗（結局、照明があったかは不明）。闇の中のベッドに寝ている先客が2名ほどいたようなので「ハロー」と挨拶してから自分の「C」を探すと2段ベッドの上。さっそく旅行鞆をベッドの上に放り上げたうえ登ろうとするが、足の位置が定めにくい珍妙なデザインの梯子（P.9のURLでの紹介記事参照）のうえ、手をつかめる鉄柱が片方にしかないため両手で身体を持ち上げられず、姿勢を崩さないよう四苦八苦しつつ登る。**デブには辛い。**おまけにベッドの奥へと旅行鞆を放りこもうとしたら奥が吹き抜けで、危うく下で寝ていた人の上に旅行鞆を落としそうになりかなり焦る（結局、旅行鞆はベッドの上に置くのを諦めて床に置くことにしました）。盗難を心配しても無駄そうだったので貴重品は身につけて部屋を出ます。今日盗まれるとしても下着とリミテッド用セットだけだし（PCと高額カード箱はリュックに入れた）。

ロンドン市内の巡回

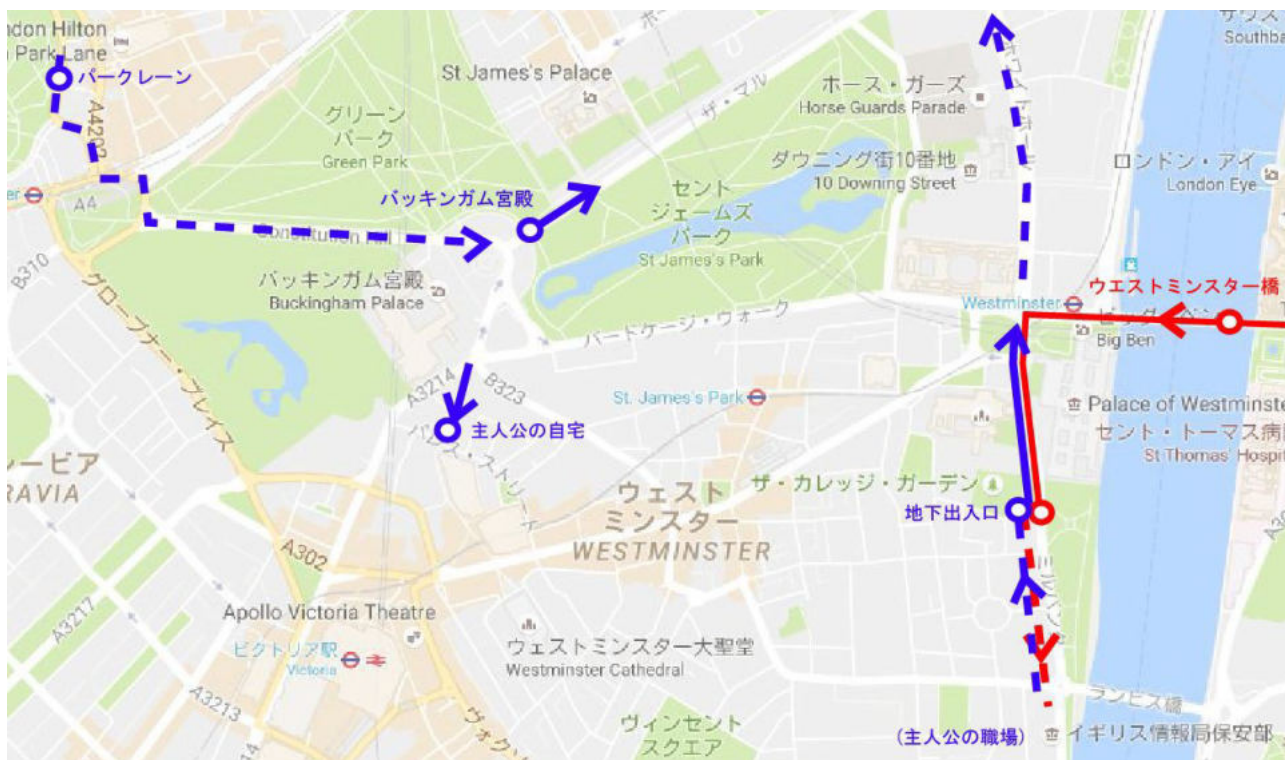
即座にホテルを出て 16 時。今日は予定として「プリズナー No.6」のロンドンでのロケ地探訪というものがあったため、明日に終日観光を楽しむうえでもできれば今日、まだ日があるうちに済ませておきたかったです。タイムリミット 2 時間。

計画済み撮影ポイントの巡回はビッグ・ベンから。不慣れなバスで行くのは即座に断念し、タクシーを拾うも渋滞でぜんぜん進まず、近くで降りて歩いて徒歩。

ここからは「プリズナー No.6」のオープニングの撮影ポイントをなぞるべく、

- ・ ウエストミンスター橋からビッグベン
- ・ カレッジガーデンと地下駐車場への出入口
- ・ パレスストリートの主人公の自宅からバッキンガム宮殿
- ・ カンバーラードゲート（パークレーン）

といった各所に徒歩で移動したりタクシーで移動しつつ2時間ほど撮影をしたのですが、本書では割愛します。是非、同人誌「村の調査報告書」を参照してください（笑）。



ロンドン市内の撮影ポイント ※「村の調査報告書」より

SOHO で夕食

カンバーランドゲートで必要な撮影を終えると 19 時。そろそろ日が暮れてきたし**寒い**。このため夕食にするべく SOHO に移動することにします。なんで SOHO なのかと言えば、外国に行ったら猥雑な繁華街を覗いてみるのが楽しみだったからです。風が吹くとくそ寒い夕方のバス停でバス待ちをする気は起こらなかったのも、地下鉄のマーブル・アーチ駅からセントラル線でトッテンハムコートロード駅まで移動し、SOHO スクエア付近からぶらぶら歩いてみました。



やはり盛り場らしくいかにも英国な居酒屋はたくさんあったものの、酒を飲まない自分が飛び込んで飯にするのも通貨感覚の伴わない今は抵抗があったため、夕食もその辺の店でサンドイッチを買って済ませます。奥歯の痛みも沈静化しつつあるものの残っており、正直それほど楽しめませんでした。

食後ふたたび SOHO をぶらぶらして、アダルトグッズを売っている店なども発見します。情報ではこのへんの裏通りには風俗店である「モデルハウス」が点在しているらしいのですが、この寒い中その気もないのにうろうろ夜道を歩く気も…というよりエッチなことを考える以前にこの頃には激しく**尿意を我慢**していました。ロンドン公衆トイレには極めて不自由な街であり、駅のトイレは有料で気軽に入ることもできず、その辺の飯屋の近くにどこにでも公衆トイレがあるわけでもなく…結局は、それから 30 分くらい尿意を堪えながらうろうろした後に、スタバに飛び込んで済ませました。

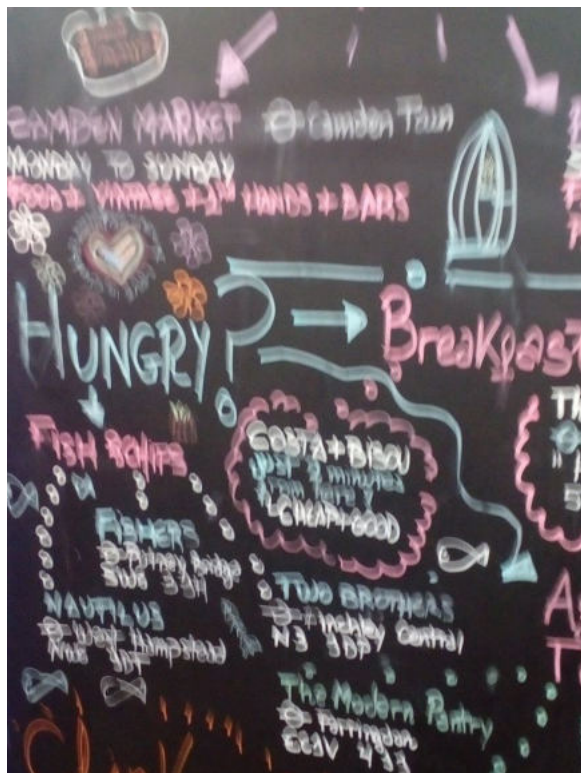
ホテルに戻り、寝る

夕食とトイレを済ませて一息つくと、疲労と睡魔が襲ってきました。まだ 19 時過ぎではあるものの日本時間は木曜午前 3 時過ぎだし、そもそも飛行機の中ではできるだけ寝たとはいえ、横になっての睡眠を取らない状態でそろそろ丸 3 日になります。

このため寒い夜の街をあてもなく歩くのはそろそろ止めて帰って寝ることにしました。

トッテンハム・コートロード駅まで戻ってから、セントラル線とピカデリー線を乗り継ぎキングスクロス駅まで戻ります。

もう大荷物はないので、キングスクロス駅からはタクシーは使わずバスにチャレンジ…をしようかとも思ったものの、グーグルで常時現在の位置とホテルの位置を確認しながらつらつら歩くうちに着いてしまいました。もともと 500m くらいです。



部屋に戻って刑務所用のシャワー（位置固定。お湯が出たのにむしろ驚いた）で汗を流し、荷物を自分のベッドに放り上げてから 21 時に就寝。（時差の関係で 30 時間くらいあった）長い一日が終わりました。

壁の黒板の落書き。従業員と客のどちらが書いたのかは不明ですが、こういうノリ。

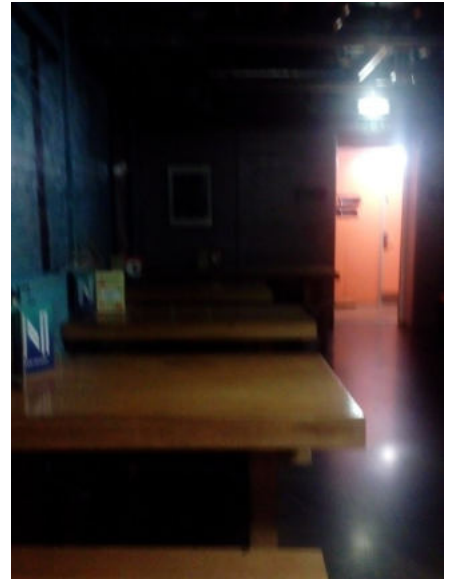
2016年10月6日（木） ホテルの無料朝食

目が覚めたので時計を見たら午前2時。5時間は眠った計算。寝なおして起きてもまだ午前3時。

さらに寝直したら午前5時に嫌な夢を見て汗びっしょりで起きた（内容は忘れた）ので、もう朝まで起きていることにする。ま、睡眠は十分だろう。

ノートPCを持参して地下の食堂に移動。このホテルでは7時から無料の朝食が振舞われるそうだが、さすがにこの時間では誰も居らず真っ暗の中、ノートPCをごそごそいじって、日本を出てからのツイッターの内容など整理開始。どう見ても怪しいひと。

ノートPCの電源の残量がそろそろ危険域に。しまった、今日ACアダプタを買わねば。



6時前、朝食を準備するスタッフが来て食堂の電気がついた。

なお幸いにしてこの頃には、あれだけ行きの飛行機の中では痛かった歯の痛みはほとんど感じなくなっていました。食事が楽しめなければ旅行の楽しみも半減なのでずっと滞在中こうだったら嫌だなあと心配していたのですが、人間の回復力って凄いな！

他の宿泊客もそこそこ降りてきて7時、朝食ゾーンが開放されたので自分も入場。普通にトースト（もちろん自分で焼く）、コーヒーやジュース、シリアルに牛乳。



うん無料飯としては全然 OK。これで一泊 £ 21 は共同シャワーや共同部屋で OK なバックパッカーにならお勧めできる内容の宿だと思います。まあ海外の見知らぬ若者達と楽しく飲んだり英会話で意気投合とかはできない自分にはやはり無理ゲーですが（笑）。

ホテルをチェックアウトしてキングスクロス駅へ



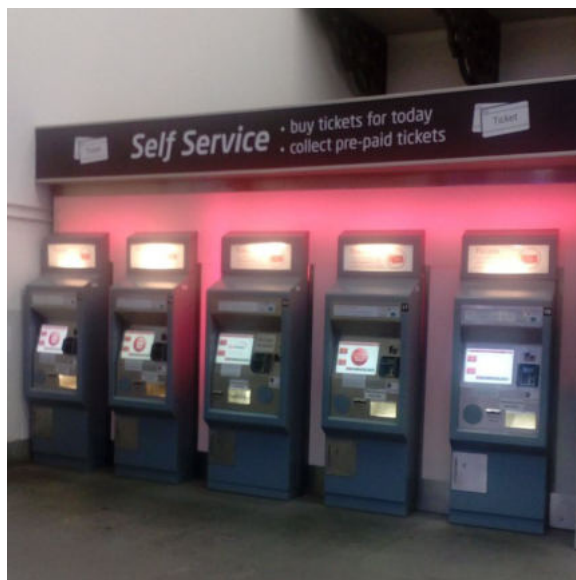
朝食を済ませ、手早く荷物を旅行鞆に詰め Clink78 を 8 時にはチェックアウト。キングスクロス駅までは、カラコロを押してバス停を探しましたが結局そのまま駅まで歩いてしまったというパターン。

今日は終日市内の観光の予定なので、まずは何よりもこのカラコロを預けることにする。駅係員に聞いたりしながら、やがて目的を達成。

料金は荷物回収時に時間に応じて支払うシステム。

さらにもう 1 つの案件として、来週月曜から火曜のポートメイリオン観光の鉄道での移動切符をネットで予約購入していた（P.5 参照）ので、その切符を受け取るというのがあった。このため駅員に聞いて発券機が存在を知る。

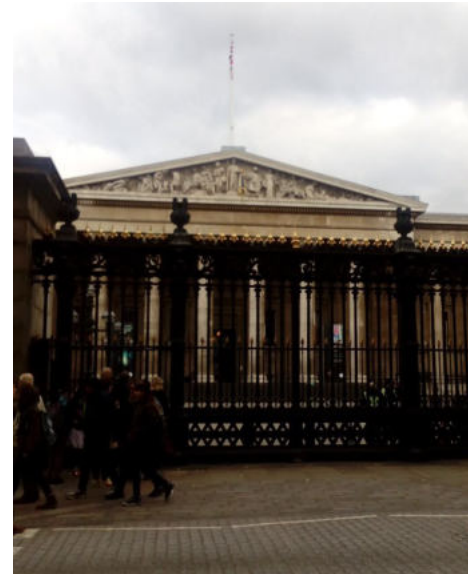
画面を操作して、予約メールに書いてあった 3 つの番号を打ち込むと、領収書と乗車券と指定席券とで合計 12 枚のカードサイズの紙が出てきました。よし任務達成。



大英博物館へ

駅での用事を終えると 8 時半。いよいよ今日の目的の市内観光の開始です。

そろそろ市内バスの乗り方を習得しなければならないので駅のバス停マップと睨めっこしながら、どうやら正しいバス停を発見して、バスに乗車。慣れればなんともないんだろうけど、やっぱり最初はハードル高いわこれ…。9 時前に大英博物館に到着。



観光ガイドには大英博物館は 10 時からとあったので、1 時間どこかで時間を潰すか…と思ったら門が開いた。

店が開いたり本格的に観覧できるのは 10 時からなのですが、9 時に入場でき一部観覧ができるようでした。もちろんそのまま入って、手荷物検査（バッグの提示）ののち、無料パンフを取って入場。大英博物館は入場無料ですがあちこちにある「寄付」の箱はスルー（すまん）。そのまま 1 時間ほど館内をうろうろするものの、結局は 24 番ルーム以外は 10 時まで開かないようでした。それでも水晶のドクロとかモアイとかを楽しみましたが。

大英博物館を堪能

やがて 10 時になり、本格的に大英博物館の堪能開始です。それから 2 時間ほども館内を歩き回って写真を取りまくりーの（基本、撮影 O K）ツイートしまくりーの。

ゲーム「Civilization」が大好きな自分にとっては、こうして地中海の古代文明の遺物を中心に眺めるのは頭の中で Baba Yet（Civilization IV のテーマの名曲）が鳴りっ放しのまさに**至福の時間**と言って良いものでしたが、本書ではその楽しさを伝えられるとは思えませんので、このへんはざっくり割愛します。

まだ通貨の相場観が分からなかったなので、高いレストランに入ることもなかりう…と思えたので、普通にスタンドでコーヒーとケーキとクロワッサンを買っての昼食。

ケーキ甘くておいしいですもぐもぐ。

さらに土産物屋にて、図録（日本語）やらロゼッタストーンの眼鏡ケースやポーチを自分土産として購入し、正午過ぎには大英博物館を後にします。



スプレー紅茶の搜索（失敗篇）

バスでキングスクロス駅にのろのろ戻る。ポケモンGOを起動してもまったく注意を受けないバスの速度に衝撃を受ける。

大英博物館を終えて午後まるまる時間を使えることになったので、他の観光に優先して「スプレー紅茶」搜索を開始することにしました。今回のロンドンのミッションの1つに、出国間際に日本で少しでもネットで話題になった「スプレー紅茶」（※1）を、できれば入手して知人へのロンドン土産にしたいとも考えていたためです。



このためまず地下鉄でピカデリー・サーカス駅に移動すると13時。そこから大手スーパー「Tesco」の本店やらで聞くも空振り。さらにピカデリー通りを西につらつら歩いて、聖ジェームズ教会で立っていた市をついでに覗いたり。非常に良い雰囲気であるが、特に土産として買うようなものはなし。

それから英国紅茶の名店「フォートナム&メイソン」で聞いたりするも知らないと言われたり老店員に苦々しく「ない」と言われたり（知っていたようだが、そりゃまあそういう反応だろうなあ）して空振り。それからバスを利用して「ハロッズ」まで行ったうえで「ここはそんな庶民的なものを扱う店ではない」と気がついて退出して来た道に戻ったり、「ハーヴェイ・ニコルズ」の食品フロアのコンシェルジュからも「知らない」と言われる。

結論としては「なんの成果も得られませんでしたぁ！」で終了。

さらに観光ガイドをパラパラしていると、先程の「フォートナム&メイソン」のページに「ここのジャムが欲しい」という女房の記入を発見したので、再入店して購入。

ピカデリー・サーカス駅前の土産物の露店で「I Love London」のTシャツを買ったり、デスコでACアダプタを買ったりしつつも、これは紅茶スプレーが入手できない可能性も普通に考えるべきだな…と思って15時過ぎ、ピカデリー・サーカスを後にする。

※1 <http://jp.reuters.com/article/nomoreteabags-idJPKCN11Q11A>

ホテルにチェックイン

まだ15時過ぎではあるが、暗くなる前に今日から泊まるホテルを発見してチェックインまで済ませるべきであると判断したため、移動を開始。

まずはキングスクロス駅まで戻り、£11を払って朝の旅行鞆を回収。

それから地下鉄でリバプール駅を経由してセントラル線に乗り換えてストラトフォードからさらに2駅先のレイTONストーン駅へ。

これがホテルの最寄り地下鉄駅になります。

レイTONストーン駅を出て、駅前W16バスが停まる停留所をほどなく発見。しばらく待って目的のバスに乗り、さらにバスを下車（実はアナウンスを聞き間違っ一駅早く降りてしまいましたが）して旅行鞆を押して歩く。

グーグル先生が機能していたので道にまったく不安はなかったとはいえ該当するあたりを見てもそれらしい看板が見当たらず焦るも、隣の家（普通の民家）に聞くなどして、やっと目的の建物を発見できました。明るいうちにたどりついておいて良かった…。





呼び鈴を押すと、アラブ人らしい主人がお出迎え。普通にチェックイン手続きを終えて部屋まで案内して貰う。悪くない部屋だなと思いつつ主人の前でトイレを確認しようと、ドアを引いて開けようとしたら**ドアノブが外れた**。

主人、動じずにノブを再度差し込んで、がちゃがちゃ回して「OK、強く押してから引けば大丈夫」と伝える。

玄関の鍵と部屋の鍵を受け取ると、主人は退場。

部屋のコンセントに買ったACアダプタを差して、無事にノートPCの通電を確認。よし、これで部屋でノートPCを使える。Wifiの電波強度もある。総統！まだ歩けます！

初フィッシュ&チップス

18時になり、そろそろ薄暗くなってもきたので部屋を出て近所の探索と夕食の確保にかかる。通りを下ると、やがてフィッシュ&チップスの販売店を発見。フィッシュ&チップスは英国の~~メシマズ~~食文化を語るうえで外せないアイテムであり、行列からは地元に評判の良い店であることは容易に推定された。これは今夜の夕食はこれでいいだろう。さっそく並ぶ。

また隣にあるコインランドリーもあるいは利用する目があるかとも思ったのだが、営業時間を見ると「19時まで」。うーん、厳しいな。



「ポテトと魚は揚げる油を分けてます」とか張り紙がしてあり、この店は当たりっぽい。

壁のメニューを見るとフィッシュ&チップスのMが£ 3。あとはこれとチキンクォーターでも頼んでみるか…と思って自分の番を待ちつつ先客を見ていると、**尋常でない量**の山盛りポテトが大きな魚のフライと一緒にカウンターから出てくる。自分が頼んでも出てくるのはアレなんだろうなあ…と気がつきチキンの注文を中止する（笑）。万一、何かの間違いで想定より少ない量のものが出てきたらコンビニで何かおやつを買えばいいや。そして自分の番が来たので、£ 3払ってフィッシュ&チップスのMを注文、出てきたのはやはりあのでかいサイズのものでした。

スーパーで今夜の飲み物とアイスを買ってホテルに戻る。まだ主人が居たのでリビングの洗濯機を使わせて貰えまいかと言うも断られる。19時までには戻るしかないかな。

食後、就寝



部屋に戻って、フィッシュ&チップスを開く。これ2人で飲みながらつまみ飯にするくらいの量は余裕であるよ。これがたった£ 3か…とも思うも、問題は量でなく味だ。そう思いつつ、つまむ。…普通にいけるじゃん。こういう感じの**やつすい味**は自分の好みです。別に完食を考えなければ良いだけの話でありこれを満足いくまでつまめばそれでよし。

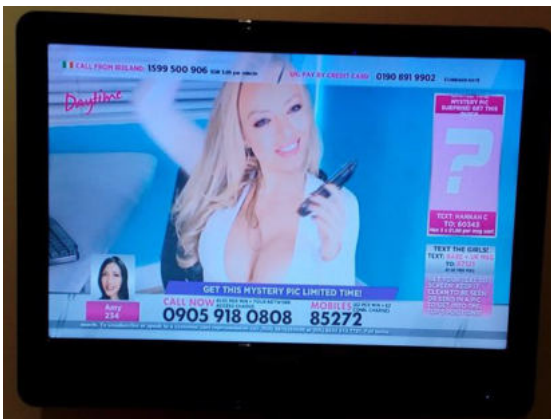
£ 1 とかをけちって腹を壊すよりは、余った分を躊躇せず捨てられるお値段でもある。1/3 も食べないうちに満足したので終了。いいなこれ。

まだ夜の8時だが日本時間は午前4時であり明日からGP開始だ。眠い。寝よう。

2016年10月7日（金） GPロンドン開始の朝

目が覚めたら午前4時。ふかふかのベッドで気持ちよく7時間は眠った計算だし起きよう。PCを起動してだらだらネットをしつつ、小腹がすいていたので机の上のフィッシュ&チップスの残りをつまむ。まだセーフっぽい。

まだ出かけるにはだいぶ早いので荷物の整理を開始する。刑務所ホテルでは荷物整理などまったくできる状況ではなかったもので、すでにロンドン滞在3日目というのにまだ財布の中にはポンドと円とディルハムが混在している状態だったのだ（笑）。これらを退避。また昨日買った月曜火曜の鉄道の切符を金土日を持ち歩く意味はないので、これも退避。財布の中の現金が£300くらいあることを確認。この2日で£200使った計算になるが、まあ7日有効パスを買ったり勝手も分からずタクシーを使ったり大英博物館の土産を買いまくりもしたから、妥当かな。あとはこの滞在中にどれだけ必要になるかだが…まあ少し会場でカードを売るか。あるいは高額の買い物はクレカ決済でも良い（何しろポンド安が凄い勢いで進行していて、先月140円近かったのがもう130円を切っているのだ）。



時間ができたのでホテルのTVチェック。エロ関係は1つを除いて、TVの前で女の子が身体をくねくねさせて「ここに電話してね」系のものしかないようだ。

ちなみに1つとは「出会い系」と思しきもの。画面にプロフィールを出している男女の写真の質からは、**ヤラセではなさそう**だ。

今日の予定はGPロンドンの金曜サイドイベントなのですが、あとはスプレー紅茶を搜索するというのもある。発売元が「ここで売っている」という情報をサイトとかに流していないのは「どこでも売っている」ためだと思ったのだが、完全にあてが外れた感じ。仕方ないのでサイトに直接「どこで売っているのか」というメールを出す。サイトにちらっと写っていた「SPAR」というスーパーを探す手もあるし、ワンチャンか。

カスタムハウス駅へ移動

7時過ぎ、そろそろ明るくなってきたので支度にかかる。昨夜のフィッシュ&チップスの残りはもう食べず、ちゃんとした朝食を取ろう。まだ£2ぶんも食べておらずやや惜しいものの残りをトイレに流す（4日借りる部屋なのでゴミ箱はNG）。初めてのフィッシュ&チップスがいける値段と味だったのでだいぶ**ロンドンが好き**になりました（笑）。



ホテルを出て移動開始。最寄のバス停は結局、徒歩1分のところにある便利さ。そして待つうちバスが来て10分後にはレイTONストーン駅に到着。うん、いいですね。

そこからセントラル線に乗って2駅、その10分後にはストラトフォード駅に到着。

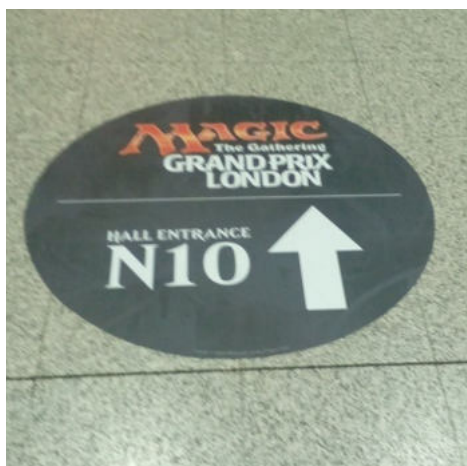
ストラトフォード駅でDLR線に乗り換えそのままカスタムハウス駅へと思ったらミスった。やはりまず本数の多いカンニングタウン駅まで移動してから

（5駅）、そこからベックトン行きのDLR線に乗り換えカスタムハウス駅に行く（2駅）…というのが正解のようですね。次からはそうしましょう。

とはいえ失敗込みでも1時間で、会場の最寄り駅のカスタムハウス駅まで到着して、そのままに通路を進むと会場施設の「ExCeL 展覧会センター」に到着。よし、まあ明日からも1時間見れば良さそう。駅からここまでにいわゆる「改札」を通らなかったよな…と思ったら、これは通路横にあるオイスターカードの機械に横を通る際自主的にタッチしていく必要があるのだと後で知りました。まあ自分は7日乗り放題パスだったので無問題でしたが。



会場へ移動し朝食



無事に9時に ExCeL 展覧会センターへと着いたので、あとは GP 会場に移動し朝食にして10時開場を待とう…と思って東に進むも、進んでも進んでも会場に着かない。ホール番号 N10 というのはひねりもなく「北の10番目」であったわけだ。途中でトイレに入ったりしながら延々と歩く。そしてやがて到着。

そして会場の前には、他の展示会のようなスーツ姿のビジネスパーソンでなく、**おれたち**が一杯（笑）。

ともあれこれで会場を掌握。まだ時間はあるので朝食にする。来る途中にあったバーガーショップがうまそうだったので、戻って注文。

注文してから目の前で焼いたベーコンエッグバーガーおいしかったです。



あとは飲み物のペットボトル（1本£2。日本円では換算したくない）など買って開場を待つて、やがて10時になりました。

いよいよ GP ロンドン 2016 の開始です。

メガミニマスター

まずは無料メガミニマスターから。
開場時に入口で参加用紙を配る
ジャッジに他のプレイヤーと同様
群がって受け取り、書かれている
テーブル番号に着席してから待つ。



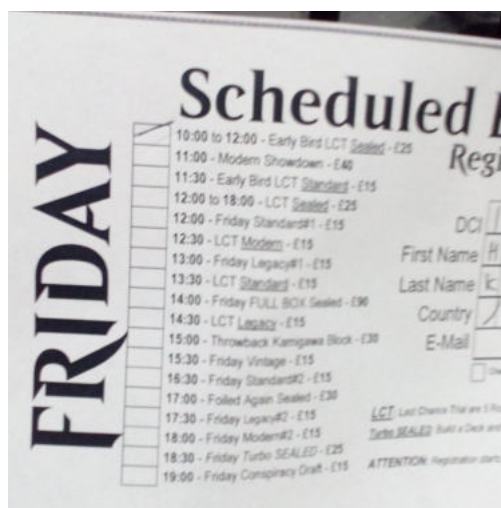
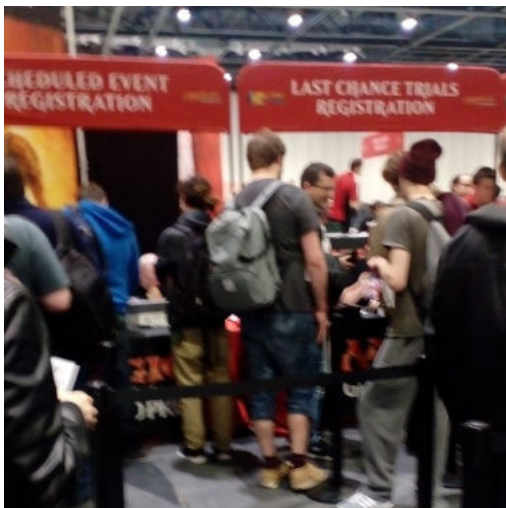
あとは1パックを受け取って基本地形とシャッフルして対戦。

勝てば次のパックを受け取って続行でしたが、負けたのでただちに終了。

まあ**無料**の1パックが貰える肩慣らしイベントとして、文句なし。

LCTシールド

続いて本日のメインである、LCTシールドに申し込むことにする。サイドイベント受付
窓口、カウンターの前にあった参加用紙に記入をして提出。サイドイベント参加用紙が
曜日ごとに分けられており、参加するイベントにチェックを入れて提出する方式。面白い。



10時45分、参加用紙を提出して、LCT 7番卓にエントリーして待つ…待ったのだが、
それから1時間たってもまだ立たない。しかもなぜかLCT 9番卓が先に立っていた。

何かのトラブルがあった模様で、同じ卓のプレイヤーが待機席でざわざわし始めたところに、ようやく開始。本戦プレイマットを1枚追加で貰ったうえ、あとは通常通りにパックをチェックし、デッキ構築。自分の取りレアは、ニッサを引いたので元取れ感。構築についても、ニッサを生かすべく白緑で。さてどうなるかな。

《慮外な押収》
《発明の領事、パディーム》
《ピア・ナラー》 フォイル
《生命の力、ニッサ》
《活性機構》
《屑鉄場のたかり屋》
《尖塔断の運河》

獲得レア

Creatures: 17

《渦跡の鷹》
《シャイラ専有地の賢者》
《ナーナムのコブラ》*2
《空中対応員》
《光袖会の職工》
《博覧会の歓迎者》
《高峰の職工》
《亢進するサイ》
《プロペラの先駆者》
《先見的な増強者》
《空渦鷹》*2
《高木背の踏みつけ》
《水辺の虎》
《岩のマストドン》
《たなびき織りの天使》

Spell: 7

《活性機構》
《空鯨捕りの一撃》
《人工物への興味》
《弱者狩り》
《ボーマットのバザール船》
《鼓舞する突撃》
《自然の職工、ニッサ》

Lands: 17

《平地》*9
《森》*7

Sideboard:

交換せず

構築デッキ

Round1 Pennacchioさん 白赤 ○○

《活性機構》が回ると、あほのような強さを発揮することが判明。快勝。

勝ったものの誘発忘れのミスをしたり、相手のトークンの1/1と1/1飛行を間違えるなど重大なミスをする。いかな。

会場内の売店でチキンサンドを買って昼食。



Round2 Lewisさん 白黒緑 ○×○

3戦目は《自然の職工、ニッサ》があほのような強さを見せ付けての勝利。膠着している状態だとアドマシンが動くと、それはもうね。

Round3 (名前なし) 赤緑 ○×○

ブン勝ち。をを、これでトップ4だぜ。これはもしかして…とちょっと期待。

なお、このプレイヤーには机の上の自分の50チケットを一緒に持っていかれた（今更どうにもならないので、せめて故意ではないと考えたい）という残念な案件が発生した。何にせよ、机の上に置かれたチケットを即座に回収してしまわなかった自分が悪い。

Round4 Boelensさん 白青 ××

G1 ブン負け。

G2 相手が《ドビン・バーン》を展開してきたにもかかわらず、こちらの土地が4枚で止まって倒すだけの突破力を得られずアドを稼がれ続けて負け。

負けた！ 150チケット（本当は200チケットだが）を獲得して終了。幸先いいな！

スプレー紅茶の搜索（接触篇）

LCTシールドを終えると午後4時。まだドラフト1回くらいはできそうなものの、LCTシールドが大変に良い状態で終わられたし、今朝スプレー紅茶の発売元に出した「これはロンドン市内のどこで売っているんですか？」という問い合わせへの返信が来ていたので、ひとつ今日はスプレー紅茶の入手を最優先にすることにする。

ロンドンの地理などはまったく分からない自分だが、返信メールに記載されていた2店の住所を調べると、どうやら「ホマートン」（Homerton）の「Eat 17」という店のほうが現在地からは近くにあるようだった。

そこでまずストラトフォードまで戻り、ストラトフォードで「オーバークラウンド」線に

乗り換えて2駅でホマートン駅。駅を降りると、次は住所の「Brooksby'S Walk」という通りを探して小一時間ほども迷った末に（笑）、その名前の通りを発見。あとは番地をもとに通りを進んでいくと…あった、**あったよ**！ SPARの系列店だった。



そして店員に「スプレー紅茶は？」と聞くと案内してくれた。よし目的達成！なのだが、ここに5本しか並んでなかったので奥から出して貰おうと思って聞くと「そこにあるのが全部」という返事。なんだと。ともあれないものは仕方ないので、全部買って店を出る。

スプレー紅茶の搜索（発動篇）

「Eat 17」を出ると17時半を回っていた。そろそろ日が暮れかけてもいる。一応今回の旅の目的である「スプレー紅茶の購入」というミッションはクリアできたわけではあるが…**足りんな**。自分でも1本使ったうえで今回のロンドン土産の目玉として友人に適当に配るにしても十分でないし、そもそもこのスプレー紅茶は3種類あることが分かっているのだが現在はノーマル1種類しか獲得できていない。

別段今夜は他に優先度の高い用事があるわけでもないのだし、もう1件の店にも行こう。

そして「ブロックレイ」(Brockley)にあるもう1件の「Zola」へと向かう。ブロックレイ駅はかなり南のほうなのだが同じオーバーグラウンド線であり、ホマートン駅から2駅のハイベリー&イズリントン(Highbury&Islington)駅で乗り換えてから、南へ13駅(遠い)。とはいえ乗って待つだけだ。

そしてブロックレイ駅で降りて、住所を調べると目的の「Mantle Road」というのは駅前通りのことで、そして「Zola」という店もほどなく発見。ほっとした。

さっそく店員にスプレー紅茶のことを聞くと、ほどなく案内され今度は3種類の全部が20本以上陳列されていることを発見する。**やったあ！**

さっそく全部を手取るも、さすがに配ろうと思っている人間の数を考えて多すぎるとも思い直して、すでに買った分とのバランスを考えつつ3種9本ほどにとどめる(笑)。この頃は通信ができず店の写真を撮るのも忘れたのですが、ともあれ19時、任務完了。

SIM 通信データ枠の追加購入

では荷物も結構重いし、ホテルに戻ろう。ということでブロックレイ駅から再度オーバーグラウンド線を北上し、ホワイトチャペル駅でディストリクト線へと乗り換え、ウエストハム駅でDLR線に乗り換えてストラトフォードまで戻ります。

ただしこの頃にはツイッターなどは一切できず、これはデータ履歴やキャリアのEEのメッセージからも「初期データ500GBを使い切った」のは明白だったため、データ枠の追加購入にチャレンジすることにしました。

ストラトフォード駅の店でこのEEのSIMを買った際についてきた謎のカードを見せると、店員はそのカードを店の端末にかざしたうえで画面を見せ「いくらチャージするんだ」と聞いてきます。正直よく分からないものの£10を支払いました。

過去の香港などの例から、これで入力のためのPINコードをくれるのかなと思っていたら店員は「もう帰れ」みたいなことを言い出したので質問すると、どうやらこのシステムは、スマホのSIMと一緒にくれたカードが連携しており、端末でカードで課金すると即座にそれで追加され使用可能になるようだ。へー、そりゃ便利だね。

店を出てセントラル線でレイTONストーンまで戻り、バスで20時半、ホテルに戻る。

夕食を取って就寝

荷物を部屋に置いて出て商店で飲み物を買い、さらに昨日のフィッシュ＆チップス店へ。同じものを2日も連続で頼みたくなかったので、今日はチキンの1/4とポテトを頼もうと思ったのだが「丸焼きでないなら、この時間では終了」と言われたので、ケースの中のミートパイとポテトのMを頼んで持ち帰る。

ポテトと比べると小さく見えたけど、結構このミートパイだけでも割と腹が満足してきたぞ（笑）。まあ、ポテトはPCをいじりながら適当につまむのがメイン。残すのも明白なのになんでポテトは「S」じゃなくて「M」にしたのかと言えば、差額の30ペンスを惜しむこともないと考えたからなのですが、でもこの分だとSでも足りないということはないだろうから、明日や明後日にまた頼む機会があったらSにしよう…。



シャワーを浴びて、今日のGP日記をDiaryNoteに書き始める。BGVにまたテレクラチャンネルを流していたら、画面の娘がぼろり。そーか、**乳首はOK**なのかロンドンのTV。さらに、別のチャンネルを回したらこちらではまんすじでもOKであったことが判明（写真は自粛）。



DiaryNoteもまとめて、日付が変わる頃に就寝。明日はいよいよGP本戦なのです。

2016 年 10 月 8 日（土） G P ロンドン本戦初日

5 時前に目が覚める。まあ眠くもないし、起きてしまってもいいかな。

メールを開くと Channel Fireball から「お前は 1Bye だから今日は 10 時までに来いよ」というメールが来ていた。ちゃんと管理できてるのか、偉いな。ともあれこれで「実は Bye が登録されていませんでした」みたいなトラブルとは無縁だろう。

財布の中身が £ 200 を切った。明日のカオスシールド（Revised スターターを使用）の £ 110 やらポートメイリオンやらのことを考えれば、あと £ 100 程度は現金を用意すべきであろう。やはりジャッジfoilあたりを売るべきかな。

会場到着

だらだらとネットをしているうちに 7 時になり明るくなってきたので、支度してホテルを出る。何ごともなく 8 時過ぎには会場に到着し、昨日とは別のバーガー店で朝食。

…昨日の店のほうがおいしかったな。明日は昨日の店にしよう。

このあたりの写真の類がほとんど撮れていないのは、昨夜の追加にかかわらずなぜか SIM で通信ができず、会場の無料 Wifi もほとんどまったくつながらなかったためです。

さらにバイヤーブースで、アーティストにサインを貰うための「無地」のプレイマットを購入して、そろそろセットアップを終えていたアーティストにサインをして貰います。また MoxSapphire 君に預かったカード（コジレックの審問）にもサインを貰います。

構築開始

予定通りに、10 時に自分が座る構築用のテーブルが提示されたので、移動して着席して待ちます。そのまま 20 分ほど待つうちキットが配布されました。

今回の GP では、6 パックと登録用紙とライフメモとペンとプレイマットと G P プロモを

全部入れたストレージケースをあらかじめ準備したうえでそれを全員に配るという方法が採用されていました。去年のGPラスベガスを思い出します。

指示に従って開封とチェックのち、本戦デッキを構築。

まずはレアチェック。まずもって文句ない戦力と言えるのは《ピア・ナラー》くらいかなあ。

何にせよ値段も総じて安いし、まあ残念。

そしてレアを生かすべく赤緑タッチ白で。

《ピア・ナラー》
《縄張り持ちの大喰らい》
《模範操縦士、デパラ》
《霊気池の驚異》
《パンハモニコン》
《感動的な眺望所》

獲得レア

Creatures: 14

《渦跡の鷹》
《無謀な炎織り》
《亢進する地虫》*2
《クジャールの種子彫刻家》
《牙長獣の仔》
《ナーナムのコブラ》
《ピア・ナラー》
《博覧会場の吠え象》
《ギラプールの案内人》
《模範操縦士、デパラ》
《金線の使い魔》
《縄張り持ちの大喰らい》
《ピーマの先導》

Spell: 11

《断片化》
《霊気との調和》*2
《予言のプリズム》
《航空艇》
《乗っ取り》
《溶接の火花》
《猛然たる報復》
《楕円競走車》
《パンハモニコン》
《品種改良の力》

Lands: 16

《感動的な眺望所》
《平地》*2
《山》*6
《森》*7

Sideboard:

《破碎》
《領事府の空船口》

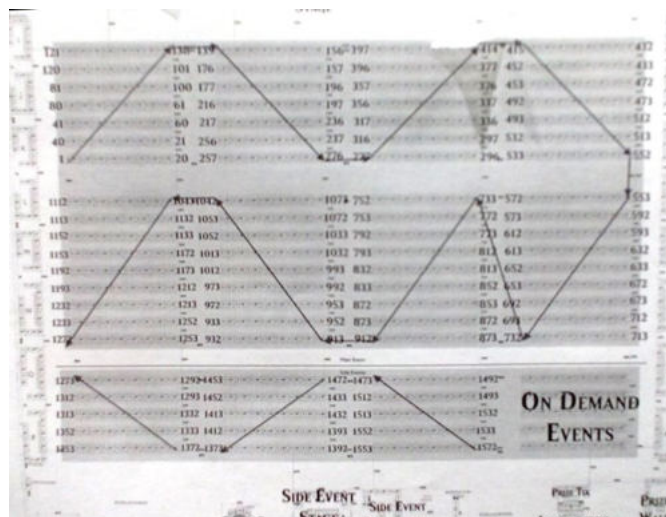
構築デッキ

ひとことで言って**構築大失敗**。5マナくらいには3色目の白が欲しかったとはいえ、エネルギーもあって困るものではないとはいえ《霊気との調和》とか不要。そして何よりメインからの《パンハモニコン》。こんなの遅いデッキに対してアドを取るためにサイドから入れるならまだしも、メインになど入らない。苦しい局面でこれを引き「欲しいのはお前らじゃない」と思ったことしばしで、速攻で毎回サイドアウトしていた。

あと根本的な問題でこの環境にしてはクリーチャーが少なすぎるし、何よりも中盤以降を受け止められるタフネス4以上の奴が皆無。あかんやろこれ。

本戦開始

最初のうちは目的の座席をなかなか発見できずに迷ったのですが、のちに本戦のテーブル番号の配置を知って変な笑いが出た。まあ「一筆書き」で配置するのは正解なんでしょうけど、1番テーブルがステージ本部から近くに無いレイアウトなんて初めて見ました。



もっとも一旦この規則に気がついた後は

自分の座席番号の確認後に、やみくもに歩かずにこの掲示を見て場所を確認してから移動するようにしたので、さほど問題にはならなかったのですが。

それはそれとして、いよいよ本戦の対戦開始です。

Round1 BYE

Round2 Varadyさん 白赤 x○x

Round3 Taylorさん 赤緑 ×○×

Round4 Hobbsさん 白緑 x○○

最後は相手の先手ダブマリで勝ちを拾う

Round5 Poeirasさん 白赤 ○×○

何とか勝って3-2まで戻した。とはいえ初日通過は厳しそう。

Round6 Knowelden さん 赤緑 ××

マナフラやら相手のブンブンやらで瞬殺。これで 3-3。もう後がない。

Round7 Montalaさん 白緑 x○x

もうだめぽ。

この時点で 19 時。PWP のために残り 2 回を遅くまで頑張る必要もないと思われたので、ドロップして明日のスーパーサンデーシールドにエントリーして会場を離脱。
これで自分の GP ロンドン本戦は終了しました。

ウエストフィールドへ

会場を離脱して帰路につく。カスタムハウス駅で黒人のおばちゃんが親しげに話しかけてきたので、あるいは若い女の子を買わないかというお誘いだろうかと思ってにこにご話を聞いてみたら**宗教の勧誘**だった。ぷぎゃあ。

面倒くさいので即座に「俺は仏教徒だよノーサンキュー」と答えたら「仏陀は死んだけどジーザスは永遠だよミスター」とか言ってくる。貴様は仏教を理解しておらん！

それはそれとして今夜はストラトフォードの西にあるという巨大なショッピングモール「ウエストフィールド・ストラトフォード」で夕食にすることにしました。事前調査で**カジノ**があることも分かっていたからです。
いつもの帰路を通りストラトフォードで途中下車。少し歩いて目的のモールに到着しました。さて。



スマホの通信データチャージに成功

「まずは飯にするか」とモールを歩いてレストランを歩いていると、スマホのキャリア

EE のサービスセンターが目に入りました。あ、これはちょうどいいやとばかりに入店。



カウンターで「昨夜、料金を追加チャージしてその記録も送られてきたが使用可能なデータが 0MB のまま増えてない」と相談。一緒に昨夜のレシート（電話番号が記載）など渡すと係員がサポート本部らしい先に電話をかけたうえ「何 MB 欲しいんだ」と聞いてきたのでここに来てからの使用量を踏まえて「1GB で」と答えると、それから会話をしたうえで「O Kこれで使える」と

言われたのでサービスセンターを後にする。実際、ただちに通信は回復しました。

どうやらこの EE のシステムは、チャージの後で自分でネットにアクセスして料金を「通話」「データ通信」「テキスト」のどれに振り分けるかを自分で自由に設定するというものだったようです。また結果的には残り期間 1GB で足りましたが、通話の予定などなかったので「ありったけデータ通信」を指定したほうが良かったかも。

カジノで勝つ

モールの中はハンバーガー系のフードコートばかりでいまひとつピンと来るレストランがなかった（具体的にはそろそろステーキでも食べたかった）ので「もしかしたらカジノの近くにあるかも」と思ってカジノの場所を探して移動して、カジノを発見。

まだそれほど腹は減っていなかったので「覗いてみるか」とパスポートを係員に見せ入店。

カジノの中をぶらぶら歩く。テーブルゲームはミニмум £ 10 位のようなだったので、いつものようにスルーして今夜もスロットマシンで少しすって終わろうかと思い、適当に台を選んで座り、£ 20 札を投入してゲーム開始。

例によって増えたり減ったりしながらトータルでは段々減っていき、ま、このまま全部

すったら終了かなと思っていたらフィーバーに突入。よく分からない当たりで「無料で30回」が出て、それから画面で見守っていたらそれによっても数回当たって、一気にトータル£40を超える。おおっと、人生初の**スロットマシンで黒字**になったぞ。

記念にただちにバウチャーを発行して換金。

それから再度£20札を突っ込んで、今度は普通にすりました。トータルで数£の勝ち（笑）でカジノ終了。満足。



フードコートで夕食



カジノを出ると21時。そろそろモール内のレストランにも店じまいする所が出てきたので、慌てて夕食を決める。とあるスタンド系のレストランで注文。僅か£9のセットだったので別に期待はしていなかったのだが、予想を上回る「がつつり肉」ぶりに満足。

ホテルに戻って寝る

食事を終えると22時を回った。すでに完全に閉店モードになったモールを足早に去り、ストラトフォード駅からセントラル線でレイTONストーンに戻り、バスに乗る。

まだ開いていたストアで今夜の飲み物を買って（全部閉まっていたら今夜は渴きに苦しむ所だった。危ない）、ホテルに戻ってシャワーを浴びて日付が変わる前に就寝。

2016年10月9日（日） スーパーサンデーシールドの朝

5時半に目が覚める。スーパーサンデーシールドは8時半からだから、眠くもないし、起きてしまってもいいだろう。

ノートPCを開き DiaryNote に昨日のマジック日記をつけるところから開始。

書きながら店で買った飲み物をごくごく飲む。

500ml ペットボトルで £2 は高いと思うが、牛乳の1リットルは £0.7 だし果物ジュースの1.5リットルでも £1 だ。部屋飲みならこれで済ませればいい。

このジュース、オレンジとレモンとパイナップルが入っているのでどう考えてもハズレの要素はないと思って買ったのだが、なんだか妙に味が濃くて苦いなあ？（伏線）



朝食を済ませて会場入り



マジック日記を書いて7時に出る。よし予定通り…
と思いバス停で次のバスの時間を見たら7時22分。
日曜日は30分に1本か。安息日だからかな。あと
20分もある。

荷物も無いしたいした距離でもないので歩いてしま
い10分後にはレイTONストーン駅に着いた。

普通にストラトフォードとカンニングタウンで乗り
換えてカスタムハウスへ。DLR線でこんな短い間に
検察があったのには驚いた（無問題）が、問題なく
8時には会場に到着。

一昨日のバーガーショップの8時開店を待ち朝食を注文。一昨日にはベーコンと卵の2点をトッピングしたが、今日はベーコンと卵とチーズの3点トッピングにした。おいちい。
平らげて満足して会場に入る。



スーパーサンデーシールド



8時半を10分ほど遅れて構築のためのテーブルが張り出されたので、移動。

スーパーサンデーシールドへの参加者に配るパックその他は、GP本戦で使ったキットが流用。つまりプレイマットはもとよりGPプロモもついてきたという

太っ腹ぶり。

チェックパックのち構築。

まずはレアチェック。

一昨日のLGPほど良くはないが、昨日のGP本戦よりはだいぶマシかなあ。

そしてレアを生かすべくデッキは黒緑で。

スーパーサンデーシールドは337人の9回戦。

さて今日は善戦できるかなあ。結果はまもなく。

《模範的な造り手》
《競争排除》
《マリオネットの達人》
《害悪の機械巨人》
《電招の塔》
《街の鍵》

獲得レア

Creatures: 17

《エンブロールの暴れ者》
《亢進するネズミ》
《クジャールの種子彫刻家》
《シャイラ専有地の賢者》
《鑄造所のコウモリ》
《博覧会場の吠え象》
《亢進するサイ》
《速接会のオオトカゲ》
《霊基体の匪賊》
《襲拳会の部隊》
《ピーマの先導》
《野生の放浪者》
《鉄華会の馬》
《霊基体の野心家》
《水辺の虎》
《マリオネットの達人》
《害悪の機械巨人》

Spell: 7

《隠然たる襲撃》
《奥の手》
《予言のプリズム》
《無許可の分解》
《弱者狩り》
《競争排除》
《当然の結論》

Lands: 16

《霊気拠点》
《沼》*7
《山》
《森》*7

Sideboard:

《領事府の空船口》

構築デッキ

Round1 Masoliverさん 白赤 ○○

小学生くらいのかわいい男の子だったが、容赦なく相手のプレイミスも見逃さずに粉砕。勝負の世界は厳しいのだ。

なおここで開始前着席時に、朝方にトートバッグの中に入れた飲み残しの1リットルのミルクの蓋が外れて床にぶちまけてしまって大変なことになる。自分と隣のペアが席を移動しての対戦。1回戦終了後に戻ったら床は拭かれていた。すまぬ…すまぬ…。

Round2 Jaffreさん 黒赤緑 ×○×

最後は相手の《製造機構》が無双。やっぱりアレあかんやつや。

Round3 Barrattoさん 白青黒 ×○×

総じて、除去をぜんぜん引かないで負け。

スーパーサンデーシールドは9回戦で上位8名が決勝ドラフト…は論外としても、賞品が出るのは上位32名まで。これもまあもうほぼ無理…なのだが、今日のデッキはもう少し遊んでいこう。いま止めたら男子小学生をいたぶっただけで終わってしまう。

Round4 Wrayさん 白赤緑 ○○

回って快勝。

Round5 Macgregorさん 白赤 ××

酷いマナフラも手伝って惨敗。

ここで2-3。さすがに続ける意味はもうなさそうであるし、ドロップすれば15時からのエターナルマスターズシールドに間に合うことに気がついたので、ドロップ。

カードを売る

スーパーサンデーシールドを続けているので12:30からのカオスシールド(=実質的なデュアランくじ£100)に出るのは早々に諦めたものの、財布の中の現金を数えるとあと3日過ごすには現金がもう少しあったほうが良いという結論になる。

そこでバイヤーブースでジャッジフォイルを見せると《Mana Drain》に£100をつける店があった。売値は2万円を超えてるしちょっと安いかなあ…と思っていったん見送るも、そのことをつぶやいたら「いま暴落していて晴れる屋でも買取1万円だよ」と教えられる。そうなのか。まあこの僕ですら持て余しているくらいだからなあ。

それからChannel Fireballの買取に行くと、《Mana Drain》は買取拒否。なんと。他の割とどうでもいいジャッジフォイル(3千円くらいまでの)をChannel Fireballで少々手放して£80位にした後に、さっきの店に戻って《Mana Drain》を£100で手放す。これで多分もう、現金は足りるだろうなあ。

エターナルマスターズシールド

参加費の£50を払って、間もなく15時に受付終了するエターナルマスターズシールドにエントリーする。エタマスと言え、まずは「高額レア」を引けたかどうかであるわけですが…結果は**大勝利**。ウィルとスニークをゲットー！



《獅子面のタイタン、ジャレス》
《意志の力》
《騙し討ち》
《ザンティッドの大群》
《制圧の輝き》
《ネビニラルの円盤》

獲得レア

もう負けても別にいいやと思いつつ、白緑で組む。

Creatures: 15

《先兵の精鋭》*2
《北風乗り》
《白たてがみのライオン》
《バリーノックの群勢》*2
《コーの鉤の達人》
《カルシダーム》
《連合儀仗兵》
《微光角の鹿》
《ケンタウルスの酋長》
《皇帝クロコダイル》
《セラの天使》
《歩哨蜘蛛》
《獅子面のタイタン、ジャレス》

Spell: 8

《平和な心》
《象の導き》*2
《アルマジロの外套》
《信仰の足枷》
《樹根》
《制圧の輝き》
《ネビニラルの円盤》

Lands: 17

《花咲く砂地》
《平地》*9
《森》*7

Sideboard:

使用せず

構築デッキ

Round1 Kaufmannさん 青黒 ××

G1 相手が先手2ターン目に打ってきた《トーラックへの賛歌》（ヒム）で、よりによって手札中に2枚だけあった土地が落ちる。そのまま数ターンもじもじして負け。

G2 そこそこ打点を稼いで今度はいけるか？と思ったら《精神を刻む者、ジェイス》が出てきて一気に盤面が戻されて負け。-1のバウンスを3回使われるだけでも、相手はその3ターンクリーチャーの展開が続けられるので負けるんだわ。数年ぶりに使われたけど、やっぱりかん子だろアレ。

「ザ・エターナルマスターズ」という負けだったけど一言で言えば**むかついた**（笑）。

Round2 氏名不詳さん 白黒赤 ××

有効打を何も引かず押され押されて負け。

これで0-2。このイベントは4回戦の固定で6点以上で賞品が出る。ということは、次に負けたらドロップでいいな。さて。

Round3 paiceさん 青黒赤 ○×○

G1 盤面を固めつつ相手がじゃかすかドローしつつも墓地に落として、その中に《世界喰らいのドラゴン》があったの「ははあ」と思いつつも、そのまま殴り勝ち。

G2 相手をライフ3までは追い詰めるも、相手が《吸血の教示者》で持ってきた《動く死体》を墓地の《世界喰らいのドラゴン》を対象にした無限コンボ成立。戦場には出たときにこちらに火力を飛ばすクリーチャーが居たので、これでコンボ負け。

G3 デッキの正体が割れたので、こちらは全力で殴りに行き向こうは全力で時間稼ぎをしつつじゃかすかドローを重ねる…のだがなかなか引かない。そしてライブラリーが尽きる頃によりやく引いて無限コンボ成立。残念負けたか…と思いつつ、ふと相手の戦場を見ると《フィレクシアの憤怒鬼》（戦場に出た際に1点失って1枚ドロー）が居たのに気がついたので、それを指差すと相手も「あ」という表情になる（笑）。お互い真面目に数えなかったけど相手のライブラリーかライフが先に尽きての勝利。これは面白かった。

Round4 NO SHOW

対戦相手が来なくて勝利。ま、もう19時回ってるし、しかたないね。

これにてエターナルマスターズシールドは2-2で終了。20チケットをゲット。

GPのお持ち帰り品

エタマスシールドの対戦相手が前のGP ロンドンの「炎上チャンドラ」のプレイマットを使っていたのを見て「あ、これは欲しい」と思ったので空き時間にバイヤーブースで探して購入。この絵は大好きなんだよね。地元でのプレイマットなだけに、£15の安さ。文句なし。



さらにプライズウォールではGPパリのプレイマットを発見。100 チケはすでにあるしもっとチケを集めて貰いたい物もないので、とりあえず交換。

あとは残った70 チケを、カラデシュのブースター7パックに変換して終了。

これにてGP ロンドンは終了です。

今回のお持ち帰りプレイマットは本戦3枚を合わせて5枚。うん少ない少ない（笑）。

なお書くほどのことではありませんが、金曜に買って数名からのサインを貰った白無地プレイマットは、土曜日に落としてしまい、届けられることなく戻りませんでした。

ホテルに戻って終了

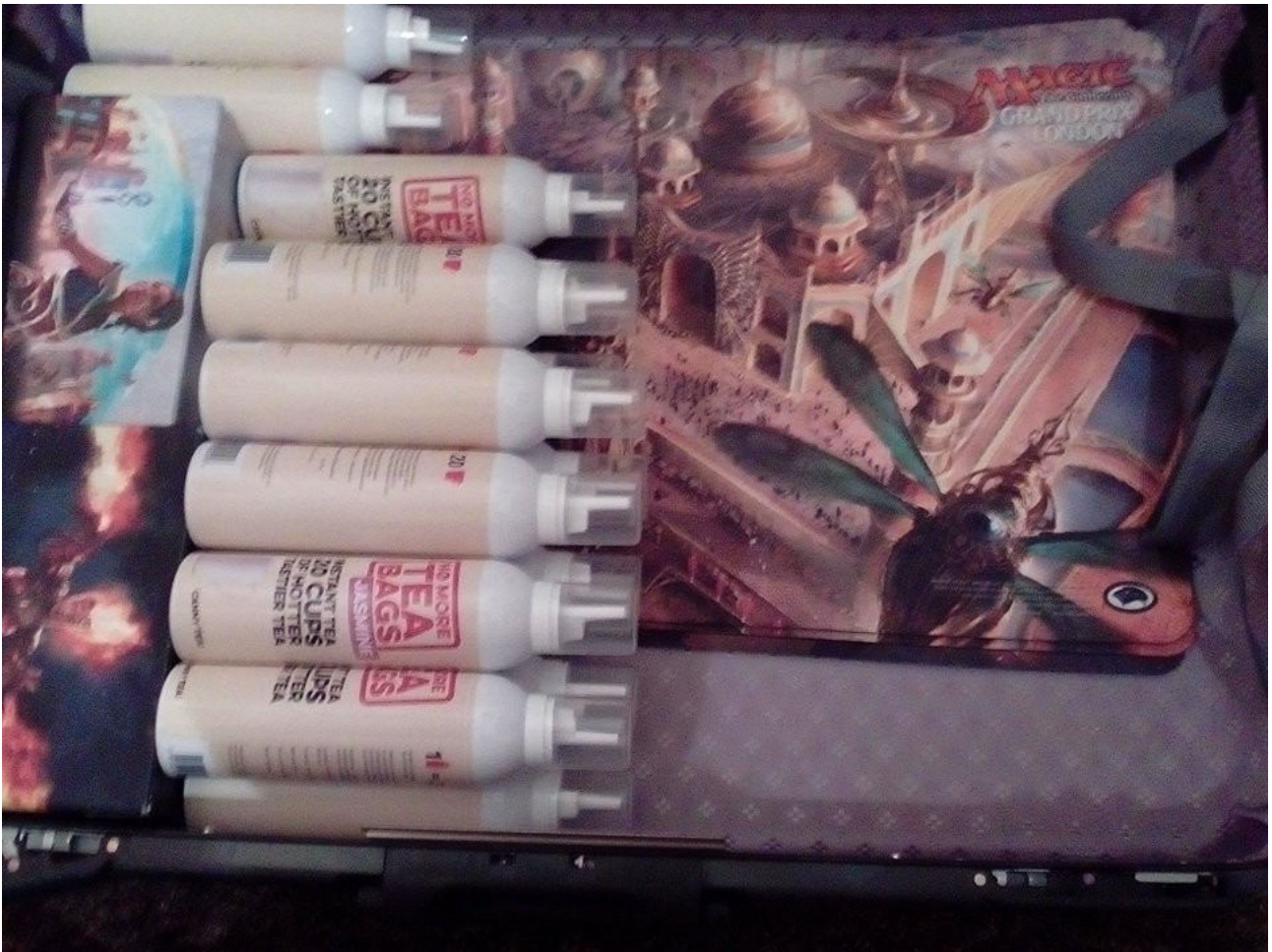
20 時前に会場を出てまっすぐホテルに戻る。では夕食はフィッシュ＆チップスにするか…と思って出かけたなら、まだ20時過ぎなのに例の店はしまっていた。日曜日だからなのかなあ。あるいは最初から日曜は営業日ではなかったのだろうか。

仕方ないので商店でサンドイッチやパンや飲み物を（明日つまむ可能性も考えて）多めに買って、部屋でもぐもぐする。満足度は高くないが仕方ない。

夕食を終え、シャワーを浴びて、今日の結果を DiaryNote にまとめたら日付が変わる。

明日はこのホテルをチェックアウトして、いよいよ（ある意味では今回のロンドン行きのメインである）ポートメイリオン行きだ。

部屋に散らばっていた荷物を旅行鞆に詰めて出られるようにして、部屋をなるべく整えたうえで1時就寝。



2016年10月10日（月） ポートメイリオン行きの朝

6時半には目が覚める。今日は10時10分にユーストンを出て北に向かう鉄道に乗るので時間はまだまだ余裕なのだが、ここでのんびりするよりは駅で待つべきだろう。

初日に言われたように鍵をドアノブに差したうえで、荷物を押してホテルを出る。ここは気に入りましたよ洗濯ができなかった点を除けば。

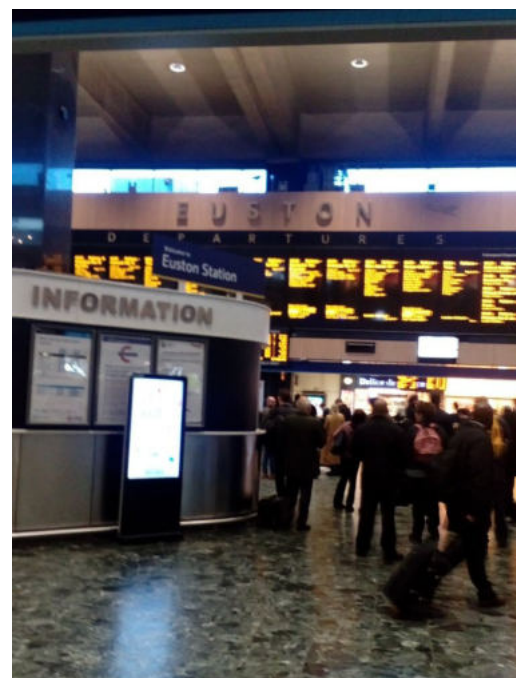
6時50分にバスに乗り、続いて地下鉄にも乗る。今日はストラトフォードでは降りずにリバプールまでセントラル線に乗ってから、サークル線に乗る。

のだが降りたのがユーストン駅でなくユーストン・スクエア駅であったという**間違い**に気がついた。名前的にもこれらの駅はすぐ近くのようにも思え、あるいはここから徒歩ですぐ移動できたかもしれないものの（地図では300mくらい）、土地勘のない身で道も知らないのに大荷物を押してそれをやるリスクを冒す気はなかったし、何より現在はまだ7時半であり時間はたっぷりあった。このため地下鉄でキングスクロス駅まで戻ってからノーザン線でユーストン駅に8時前には到着。

ユーストン駅で待つ

あとはここで2時間ほど時間を潰して10時10分発のチェスター行きの列車に乗ればいいだけだが、何番ホームなのかなあ…と思って電光掲示板を見て理解したのだが、どうやら英国の鉄道というのは、ダイヤには到着ホームが明確に設定されておらず、列車が駅に来る直前に到着のホームが決まるものであるようだ。過去にダイヤが大幅に乱れたためかもしれないけど何とも不合理としか言えない。そして10時10分発はまだ掲示板に出ていない。

ここで「まだ2時間以上もあるんだから、前倒して



1 本早いチェスター行きに乗れないかな？」と思ってカウンターで聞くと、係員は自分のチケットを見て「これはオフピークの券（安い）なので9時半以降の列車にしか乗れない。アップグレードするなら追加料金が」と言ってきたので、そこまでするほどではと断る。だいいちポートメイリオンに2時間早く着けるならともかく、闇雲に行ってもおそらくは途中の乗換駅で余計に2時間待つだけの結果になるだろう。



ともあれ仕方ないので、バーガーキングで朝食を買ってベンチで食べつつ待つ。もぐもぐ。

さらに駅の有料トイレを利用。10ペンス貨と20ペンス貨で合計30ペンスを入れると通れる。その横に両替機もある。正直30ペンスなど別に惜しくもない金額だが、面倒だなあ。

結局それから自分も数独で時間つぶしなどしながら時折電光掲示板の前で、到着する自分の列車のホームが表示されるのを上を眺めて待つ羽目になる。みんな間抜けそうにこれをやっているわけだが、ここにベンチとか置いちゃいかんのだろうか？

結果的には、自分の乗る列車のホーム番号が表示されたのは発車の10分前。



早く来た意味がまったくなかった。 足早に19番ホームへ移動する。

チェスターへ

そそくさと乗り込むと、定刻通り 10 時 10 分にチェスター行きの列車が発車。あとはのんびり 2 時間の鉄道の旅だ。4 人席であるが中央のテーブルが使える席で隣も空席だったので、ノート P C を広げて作業。ジュースを飲んだり昨夜買ったミニクロワッサンをつまんだりしてのんびりする。窓の外は田舎道が延々と。なにげともなく 12 時過ぎの定刻にチェスター駅に到着。



スランディドノ・ジャンクションへ

チェスター駅で下車して、11 分後に発車するホーリーヘッド（Holyhead）行の列車の出るホームを調べ、そそくさとホームに移動。すこし待つうちに列車は到着したので乗車。12 時 14 分に列車は発車。次はこの列車で Llandudno Junction 駅まで行って乗り換え。

読めません。どうやら「スランディドノ」と読むらしいのですが…。

この列車は結構混んでいて、自分の席の近くも満員で、荷物とかをなんとかできる余地はないようであり、乗車時間も 1 時間ほどだったので、廊下に戻って廊下の補助席に荷物と一緒に座る。英国の列車って、廊下やドアの前に「補助席」があるので、目的の駅に着く前に扉の前で待つときとか、こういう時には有難いですね。

ともあれ定刻通り 13 時 12 分、スランディドノ・ジャンクション駅に到着したので下車。



ブライナイ・フェスティニオグへ

次は18分後の、Blaenau Ffestiniog
行きに乗車。ちなみにこれは「ブライ
ナイ・フェスティニオグ」と読む模様。
定刻どおりに発車し、到着は1時間後。



車内の注意書きが読めません。つまり読めない駅名もそうですが、
チェスターから先は「英国」には違いなくとも「ウェールズ州」で
あり、公用語は英語と並びウェールズ語が採用されているのです。
ポートメイリオンで英語が通じなかったらどうしよう一瞬、心配
しましたが（笑）。にしても英語併記ですらないとは…。

そして14時過ぎに列車はブライナイ・フェスティニオグに到着。

ポートメイリオン行きのバスに乗る

ブライナイ・フェスティニオグ駅に到着。ポートメイリオンのアクセスガイドに「ここで
タクシーを呼べ」とも書いてあったものの、ここは山の上で地図で見る限り軽く15kmは
ある。これタクシーだと一体**いくら取られる**んだ？と不安になりつつ駅前に降りる。
駅に着く前に列車内では、電話も使える筈のスマホでホテルの電話番号にかけるもなぜか
通じなかった（市内局番のかけ方の関係かも）ので駅前の商店に入って、店の主人に
「ポートメイリオンに行きたいのですがタクシーを呼んでくれませんか」と頼む。主人は
「タクシー高いよ、駅前のバスのほうがいいよ」と言いつつも、タクシー乗り場を教えて
くれたので、一応そっちに向かう。

しかし思い直して駅前に戻りバス停へ。
バス待ちをしている爺さんが居たので
「ポートメイリオン行きバスはここで
いいのですか」と尋ねると、親切に
「ここで1Bのバスに乗ればいい」と
教えてくれた。なるほどポートメイリ
オンからほど近いポルスマドク行きだ。
しかも時間を見ると1時間に1本位の
1Bバスはあと10分もしないで来る。
なんという幸運。

定刻14時45分に到着したバスに乗り
運転手さんに念のため「これ、ポートメイリオンに行きますよね」と確認しつつ£2.1を
払う。よかった…英語とポンドが通じて本当に良かった…。

Blaenau Ffestiniog, Gorsaf Trên/Rail Station											
1B	i/to PORTHMADOG	via TAN-Y-BWLCH									EXPRESS MOTOR
35	i/to DOLGELLAU	via TAN-Y-BWLCH - TRAWSFYNYDD									EXPRESS MOTOR
504	i/to DOLGELLAU										EXPRESS MOTOR
X1	i/to LLANDUDNO	via BETWS-Y-COED - Cyffordd Llandudno Junction									EXPRESS MOTOR
X1	i/to DOLGELLAU	via TAN-Y-BWLCH - TRAWSFYNYDD									EXPRESS MOTOR
X19	i/to LLANDUDNO	via BETWS-Y-COED - Cyffordd Llandudno Junction									LLEW JONES
Llun i Sadwrn						Monday to Saturday					
Time	Service	Notes	Time	Service	Notes	Time	Service	Notes	Time	Service	Notes
0630	35	(A)	0810	504	COO	1025	1B		1425	1B	
0700	1B		0835	1B		1125	1B		1445	1B	
0715	1B	CD(N)	0845	X1		1145	X1		1525	1B	
0745	X1		0845	1B		1200	1B		1525	1B	
0755	35		0925	1B		1225	1B		1625	X1	
0755	1B		0945	X1		1325	1B		1630	1B	
Suliau a Gwyliau Cyhoeddus (ac eichrio Dydd Nadolig, Gwyl San Steffan a Dydd Calan)						Sundays & Public Holidays (except for Christmas Day, Boxing Day & New Year's Day)					
Time	Service	Notes	Time	Service	Notes	Time	Service	Notes	Time	Service	Notes
1200	X19		1440	X19		1730	X19				

ポートメイリオンに到着

ポルスマドク行きのバスは延々と山道を下った。うん…
タクシーにしなくて本当に良かった。常時グーグルで現
在位置を確認していたのでなんの不安もなかったが、
30分ほど走ってバスは最寄り駅の「ミンフォルズ」に
停車して下車。「ポートメイリオンはあっちだ」と言う
運転手にお礼を言って去る。



そして少し歩くうち、間もなくポートメイリオン
であることを示す看板が現れました。

15時15分、いよいよ「プリズナー No.6」の聖地
巡礼の始まりです。

ホテルからの車に乗りチェックイン

地図によればここからは500mほど。なぜかスマホの電話は通じないし歩いていけない距離でもないで**上り坂を**カラコロを押して汗だくでふうふう向かいます。そんな折、前から来た車の女性が自分を見て車を止め「ポートメイリオンに行くの？」と声をかけてきました。そうだと答えると女性はその場で携帯で電話をして「いまホテルの車を呼んだからそのままここで待て」と伝えて去ります。ホテルの関係者か、あるいはただの住民かもしれないませんが、なににせよ深く感謝。やがて来た車に乗り、ほどなく車は見慣れた「村」に入り、目的のホテルに到着しました。問題なくチェックインを終え、自分の部屋に案内されました。



ここから自分は、かねての予定通りドラマ「プリズナー No.6」の舞台となったこの「村」について聖地巡礼を行うべく、部屋を出て、あちこちを思いのままに歩き回り、写真を撮り回り土産を買いまくり…という**至福の数時間**を過ごすことになります。またこのホテルはそもそもたいへんに快適であり、また上等なレストランでも豪華なディナーを楽しみました（まあ£50弱ほどはかかりましたが）。

ポートメイリオンはもとより静かな高級リゾート地でありそれ自体も楽しめるものではありましたが、村全体がプリズナー No.6 のロケ地に使用されたことは今でも十二分に観光資源として意識されており、ほぼ50年が経過した今でも、撮影当時の面影を残す建物が点在し、それほど露骨ではないもののドラマの記号が各所に残されています。これらについては本書と同時に発行する同人誌「村の調査報告書」でふんだんに記述を行いましたので、是非、ドラマ「プリズナー No.6」に興味をお持ちの方は、そちらの同人誌をお手に取っていただければ幸いです。

2016年10月11日（火） ポートメイリオンでの朝



基本、こういう素敵な風景ばかりの村です

7時前に起床。

至福の時間を堪能したポートメイリオンでの滞在も残念ながらそろそろ終わりです。

手荷物は昨夜のうちにまとめておいたので、明るくなってきた7時過ぎ、最後の散歩と撮影を楽しむため部屋を出て一回り。

朝食を済ませてチェックアウト

8時過ぎにレストランに入り朝食。上等のイングリッシュブレックファーストに加えて、パンやフルーツや飲み物はバイキング形式で思いのままにいただきます（まんぷく）。自分の部屋は一泊£130ほどの部屋でしたが、この£20くらいの朝食代も込みなので、これはもしかしたら結構リーズナブルな宿ではないので



でしょうか。まあここまで来るの大変でしたけど（笑）。

食事を終え、部屋に戻って荷造りを済ませていた荷物を引き、9時過ぎにフロントに戻り、ホテルをチェックアウト。さらばポートメイリオン。

車でポルスマドクへ

10 時 05 分のポルスマドク発の蒸気機関車で帰ることを伝えてあったため、ホテルにはポルスマドク駅までの車を手配して貰い、出る（無料）。

車中は、運転手の爺さんと雑談。ポルスマドク市に入り爺さんが「あれが蒸気機関車だよ」とも教えてくれるが車は停まらない。「あれ？蒸気機関車駅はここじゃないのかな？」と思いつつそのまま何百メートルか進んで駅に到着。礼を言って車を降りる。



蒸気機関車に乗車

時刻は9時半。ここであと30分くらい待てばいいのかな…とも思うも引っかかるものがあつたので、開店間際のスタンドの女性に「ポルスマドクの蒸気機関車駅はここでもいいのですか」と質問すると「違う。ここは普通のポルスマドク駅で蒸気機関車駅はあっち」と今きた方角を差す。**不安的中**。やっぱりさっきのあそこがそうだったんだ！爺さんにちゃんと「蒸気機関車駅」のほうであることが伝わってなかった！

一瞬目の前が真っ暗になるが、まだ時間には間に合うと気を取り直して、カラコロを押し汗だくで道を300mほど戻って（タクシーは通らなかった）、途中3人ほどに道を聞いて確認しながら、駅に到着。

ネット予約番号を伝え無事にチケットを受け取り、10時に乗車。なんとかあったあ！



蒸気鉄道の旅

定刻どおりに 10 時 5 分蒸気鉄道は
出発。ここからブライナイ・フェス
ティニオグ駅まで、のんびり山道を
1 時間 15 分かけてガタゴト上る。

自分の席の机の上にメニューと封筒。

「やあ！ぼくの名前は Welsh Pony
だよ！1867 年生まれの間もなく
150 歳です」とか書いてある。

この封筒に寄付を入れて駅員に渡す、という趣向らしい（すまん、スルーした）。
注文を取りに来たのでソフトドリンクなど頼み、蒸気鉄道ののんびり旅を堪能。



スランディドノ・ジャンクションまで戻る

11 時 20 分、ブライナイ・フェスティニオグ駅に到着。15 分後に出るスランディドノ・
ジャンクション駅への乗り換えも普通に成功。

ここは 1 時間ほどなので、のんびり到着を待つ。

数日前に買った 1.5 リットル £1 のジュースは、
妙に味が濃くて苦いものの勿体ないのでちびちびと
飲んでいたのですが、ふと裏ラベルをみたらこれは
水で **5 倍に薄めて** 飲むものだ気がついた

（笑）。うぎゃあ。道理で味はだいぶ濃いし苦いし、
飲んでもむしろ喉が渴いたわけだ、失敗。

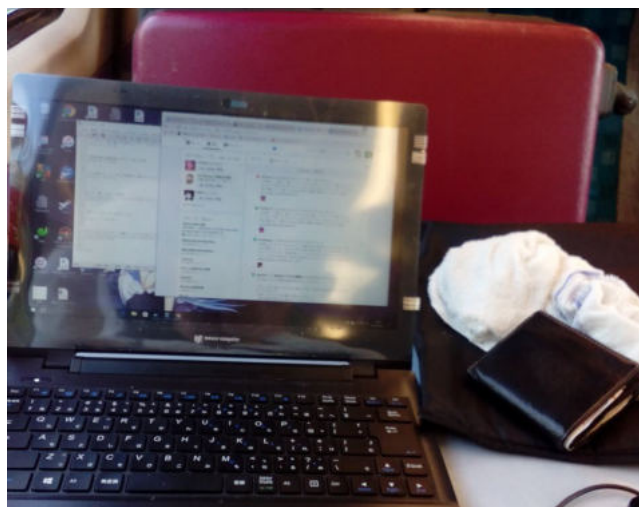


マンチェスター・オックスフォード・ロードへ

スランディドノ・ジャンクション駅で乗り換えて 20 分ほど待ち、12 時 53 分のマンチェスター空港行きに乗る。次は約 2 時間後にマンチェスター・オックスフォード・ロード駅で乗り換え。

すいていたので盛大に 4 人席に旅行鞆なども放り出して P C を出して作業。

特に何ごともなく 14 時 48 分、列車は目的地に到着した。



ちなみに昼食を食べていないのは、実はポートメイリオンの朝食をいささか食べ過ぎたためである。おいしかったんですよ朝の料理+朝食バイキング。

ノッチングムへ

マンチェスター・オックスフォード・ロード駅で 40 分ほど待った後、ノッチングム行きの列車に乗車し、15 時 39 分に発車。ここからは 2 時間弱。まあ、何にせよ車中は待つだけです。

そして 17 時 27 分、そろそろ日が暮れようとしている夕方、列車はノッチングムに到着。

いよいよこれから**イングランドおっばい**が僕を待っている。少し雨がちであったようだが、そんなことで僕のこの思いは止められない。

ノッチングムを出てロンドンに向かう列車は 21 時 32 分発のものを予約したので、あと 4 時間近くここでおっばいを堪能できる計算だ。堪能しよう。



フーターズへ

あらかじめ調べておいたルートに従いカラコロを引いてノッチングム駅を出て、駅の北西にあるフーターズを目指して歩く。幸い、傘を差すほどではない。



そしてほどなくフーターズを発見し入店。

フーターズでは2〜3時間は過ごすつもりであったことから、席を案内される際に「コンセント使用可能な席で」と注文し、結果、柱の近くのスタンドに案内された。

フーターズで夕食

先立って列車の中で財布の残金を数えたところまだ£150くらいあった。明日は飛行機に乗って帰るだけなので空港で土産を買うにしてもややポンドが余りそうな気配。このためとりあえず、今夜は**金に糸目をつけず**にフーターズで散在することにした。何にせよまずはコーラと料理を注文することにした。料理はハンバーガーにしようかと思って頁をめくると「Tボーンステーキ」（£21）というのが目に入った。ここでがつつり肉も悪くないのでメインの料理に決定。

少し待ったすえに到着。
コールスローが小さく見える
ほどのでか肉と山盛りポテト。

昼飯を抜いていささか空腹を感じているとはいえ、それでもこれは完食できるか…せめて肉だけでも完食をしよう。



フーターズで粘って、出る

なんとか肉と野菜は完食したうえで、以後ノートPCの作業に戻り、残る大量のポテトは飲み物のみながらつまむことにした。

さらにカプチーノを頼んだりデザートにアイスを注文したりする。アイスは1個だけを頼むことはできずに4個入りの1皿を注文。まあこれでも£2.49だから別にいいけど。



さらにグッズ売り場で、フーターズのマグカップ（ノッチングラムとか英国とかの文字が入っていないのが残念。それを求めに来たのに）とか、Tシャツとか、去年ラスベガスに行った際にはなくてがっかりした「トランプ」などを思いのままに購入。

ノッチングラムのフーターズには残念ながら「ダンスタイム」は無いようであり、粘るのもそろそろ限界かと思ったので20時過ぎにフーターズを出る。渡された勘定書きを見たら

£92と書いてあったので思わず目をむくが、そのまま現金で払う。もっともそのうち£50ほどはグッズだったのですが（笑）。

ともあれ、これでポンドは余らせずに済みそう。

ロンドンに戻る

カラコロを押しつつノッチングラム駅に戻ると20時45分。予約したロンドン行きの列車は21時32分発。しばらく夜のホームで待つしかあるまい。

指定のホーム7aに21時過ぎ到着した車両に乗り込んで待つ、定刻どおり出発。あと2時間後にはロンドンだ。



ロンドンからそのままヒースロー空港に移動して、朝まで空港で過ごしてから、朝9時の

便でロンドンを発てばこの旅も終了。ともあれ2時間車中で過ごすしかないので、ノートPCを取り出して作業。車中はまあ、ガラガラ。

特に書くべきこともなく、23時40分、列車はロンドン（セント・パンクラス駅）に到着。これで2日間の英国列車の旅は、予定通りに全行程を完遂できました。

2016年10月12日（水） ヒースロー空港に移動

セント・パンクラス駅にはピカデリー線が通っているので、これでヒースロー空港までは1本で行けるはずだ。先週水曜日に買った7日間ゾーン1-3乗り放題チケットはあらゆる意味でもう使えないので、ゾーン1-6の片道切符£6を購入して地下鉄に乗る。

あとはエディハド航空のターミナル4まで移動するだけなのだが、ヒースロー方面の行き先が「ターミナル123&5」のみ。もしかして…もうこの時間にはピカデリー線は**ターミナル4**

には行かないのか。げえっ！

…仕方ない、とりあえずはヒースロー空港まで行こう。空港内でのターミナルの間を移動する無料シャトルバスなりはあるだろう。

そんなこんなで午前1時半、ヒースロー空港（ターミナル123&5駅）に到着しました。



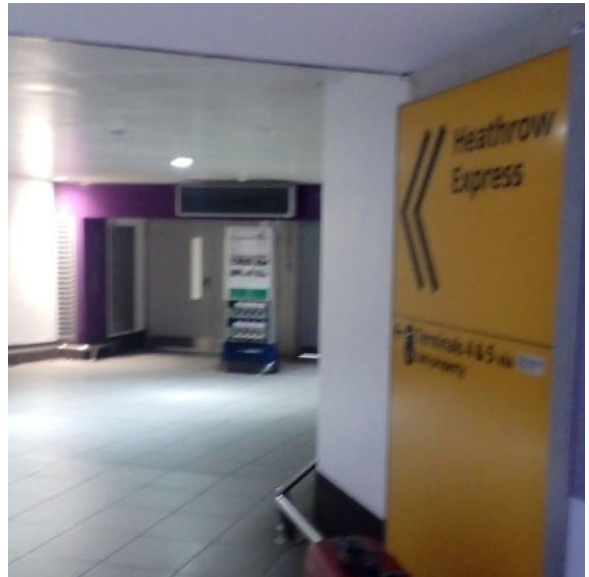
ターミナル4への移動手段なし

空港には「→ターミナル4」という行き先の案内があったので、これでいいのかなと思いながら動く歩道を進むと、矢印の先は**扉がしまってます**。どうやらここはターミナル

4 への無料高速シャトルらしいのですが、この時間にはそれもやっていないらしいらしい。歩いている人もまばらだし、ヒースロー国際空港は別に 24 時間眠らない空港というわけでもなかったんですね…と実感。

ではバスはどうだろうと思って動く歩道を戻ってバス乗り場に移動してまだ居た係員に聞くと「ターミナル 4 行きのバスは午前 4 時から運行します」との返事。

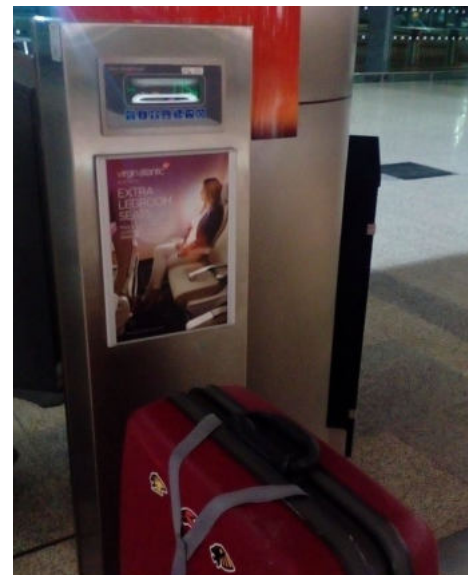
フライトは明日朝 9 時半であるので、いまターミナル 4 に着けないことには何の問題もないのですが、ともあれどうやらあと 2 ～ 3 時間ほどは、ここで朝を待たねばならないようでした。



朝まで生ターミナル 3

廊下で朝を待つわけにもいかないので、ここから一番近いターミナル 3 の空港ビルに移動して朝を待つことにします。ほぼ無人のターミナル 3 の施設内を探して「荷物計量機」を発見できたので旅行鞆を計量します。荷物の重量がエティハド航空の無料枠 23kg をオーバーしているようならば中身を抜かねばなりません。

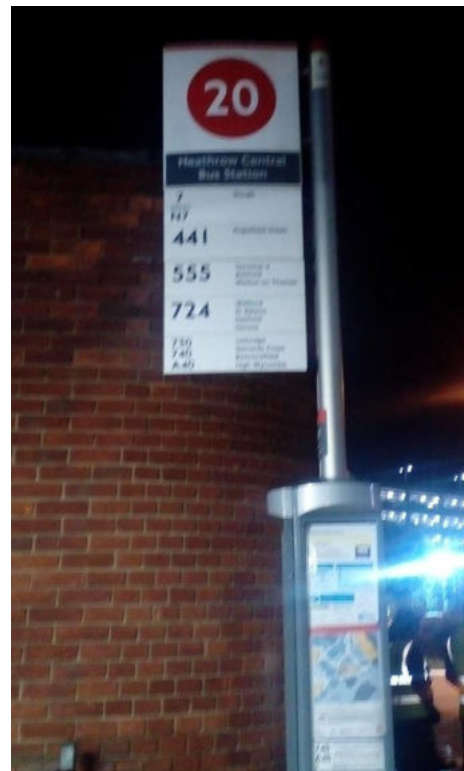
とはいえ結果は 17.5kg。まだぜんぜん余裕だったので、ついでにリュックサックの中の荷物からフーターズのグッズや傘など、成田までの移動中に必要ないものなるべく旅行鞆に移しリュックサックを軽くしました。



さらにターミナル内を搜索して「充電コーナー」があり、その近くのベンチにも寝ている先客はいたもののもう片方の列が空いていたので、自分も充電しつつ横になりました。

ターミナル4へのバス

うとうと2時間ほどして目が覚めて3時半。そろそろ起きて良からう。とりあえずバス乗り場がよく分からなかったため先のシャトル乗り場へと移動したうえで、しばらくしてスタッフ服の黒人が通りかかったのでターミナル4への移動方法を質問。そのスタッフは「このシャトルは確かに無料だが動くのは5時から」「無料バスなら4時から」とこちらが知りたい情報をてきぱきと教えてくれたうえ頼みもしないのに「バス乗り場はこっちだ」と案内してくれ、さらに階段では軽くもない旅行鞆を勝手に持って上ってくれました。そしてバス停では「ここで555のバスに乗れば15分くらいで着く」と教えてくれて去る。**圧倒的感謝**。…あ！こういう時はチップを渡せばよかったのかな？すっかり咄嗟には忘れていた。バカバカ俺の馬鹿。



ターミナル4でチェックイン待ち

4時ぴったりに555バスが来たので、乗車する。降り損ねないように、停車するたびにバス停の駅名や周囲の風景などを確認していると、確かに15分ほどしてエティハド航空の看板の前を通過して、どうやら間違えようもなくターミナル4に到着した模様。ほっとしつつバスを降りる。



Page 1				
06:30	KLM	Amsterdam	G35539	Go to Departures
06:40	AIRFRANCE	Paris (CdG)	G35113	Go to Departures
06:45	Alitalia	Milan (Linate)	AZ229	Go to Departures
06:55	AIRFRANCE	Paris (CdG)	G35079	Go to Departures
07:25	Alitalia	Rome	MU8206	Go to Departures
08:00	QATAR	Doha	QR006	Go to Departures
08:25	Qatar Airways	Muscat	WY104	Go to Departures
08:40	KLM	Amsterdam	MF9304	Go to Departures
09:30	BT AIRWAYS	Mumbai	9W119	Go to Departures
09:35	ETIHAD AIRWAYS	Abu Dhabi	VA7012	Go to Departures
09:45	AIRFRANCE	Paris (CdG)	DL8719	Go to Departures
09:45	AI	Delhi	AI162	Go to Departures
09:55	KLM	Amsterdam	KL1008	Go to Departures
10:00	Gulf Air	Bahrain	GF002	Go to Departures

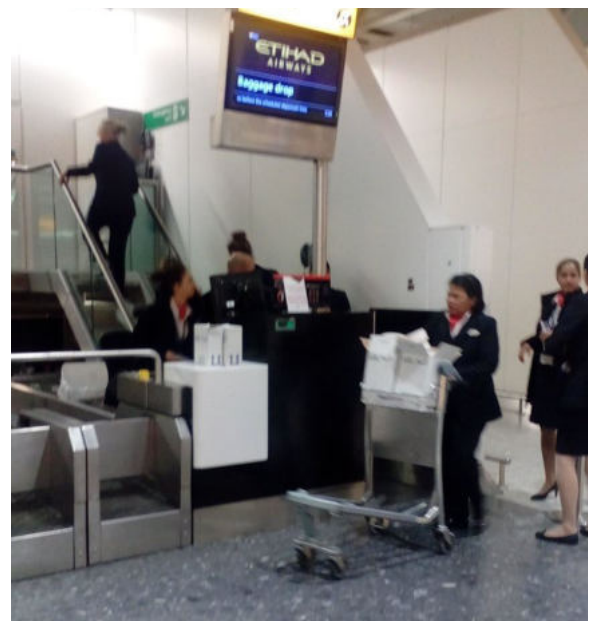
ターミナル4を歩いて掲示板を確認。自分の便は9時35分で「Go To Departures」と書いてあるけど搭乗手続なんてまだやってないよ（笑）。

エティハド航空のカウンターも当然ながら無人。聞いてみると受付は5時35分から開始するらしいので（半端な時間ですね）、あとは1時間ほどもソファに座って時間を潰していればいーようだ。

搭乗手続き

5時20分にエティハド航空の受付前に移動。自分の前にさっさと荷物を預け身軽になりたい同類数名がすでに並んでいた。
5時30分、エティハド航空のスタッフが到着して、ほどなく搭乗手続きを開始。
なにがともなく旅行鞆を預けてチケット獲得。

まだ4時間近くはあるが、ここに居ても仕方がないのでさっさとセキュリティを通過して（出国審査というのはいない模様）ゲート前へ。



現金使い切り

財布の中に残っているポンドを使いきるため数える。まずは免税店で友人への土産の酒を買い、さらに女房への土産の紅茶とチョコクッキーを購入。
これで残金が£10程になったので朝食にすることにしました。



ここで現金が£15 ほど残っていたのならば
イングリッシュブレックファーストのセット
など注文するつもりでしたが、微妙に足りな
かったので朝のコーヒーと、クロワッサンの
ホットサンドなどを注文。おいしいです。
喉が渴いた際の自販機飲料のための£3 ほど
を残して、これで現金使い切り完了。

アブダビ空港へ

朝食を終えてそのまま2 時間ほど待ったのち、8 時半に搭乗開始。

何ごともなく9 時35 分にヒースローを離陸。さらば英国。

7 時間半のフライトは、機内 NHK を観たり、機内食の昼食を食べたり、寝ているうちに
過ぎて何ごともなくアブダビ時間 20 時 10 分（英国時間 17 時 10 分）アブダビ空港着。

※ここからはアブダビ時間で記します

アブダビ空港ではトランジットの際に再度のセキュリティ検査があったので「荷物の中に
最初のセキュリティを通過した後で買ったドリンクとか酒とかあるんだが…」と思うも、
そのへんは黙っていたら特になんのお咎めもなく通過。

アブダビ空港では2 時間待ち。なお行きに両替した UAE ディルハムのはうっかり

成田行きの旅行鞆の中に入れたため、ここでは飲み物ひとつ買えませんでした、
実際にはほどなく搭乗できたので、それほど不自由は感じませんでした。

ともあれ予定通りに 22 時 5 分、アブダビを発ち成田に向かいました。

2016年10月13日（木） いよいよ日本へ

アブダビから成田までは10時間余り。
まあ時間的にも寝ているしかありません。

まずはただちに出てきた夕食をいただきます。
シンガポール風のピリ辛ヌードル
おいしいです。



さらに午前2時。すでに機内の照明は落ちていたものの、
まだ起きていた乗客に対して「スナック」が振舞われました。
もぐもぐ。

さらに5時40分。機内の照明が点灯し、
朝食がふるまわれました。うっかりして
「チキン」と言って「和食」を頼んでしまっ
たものの、米飯でなく粥だったので
これは別に「まずい炊き方の米だなあ」
と感ずることもなく完食。



帰国

「朝食」を終えるとアブダビ時間で朝の6時。すなわち日本時間では午前11時です。

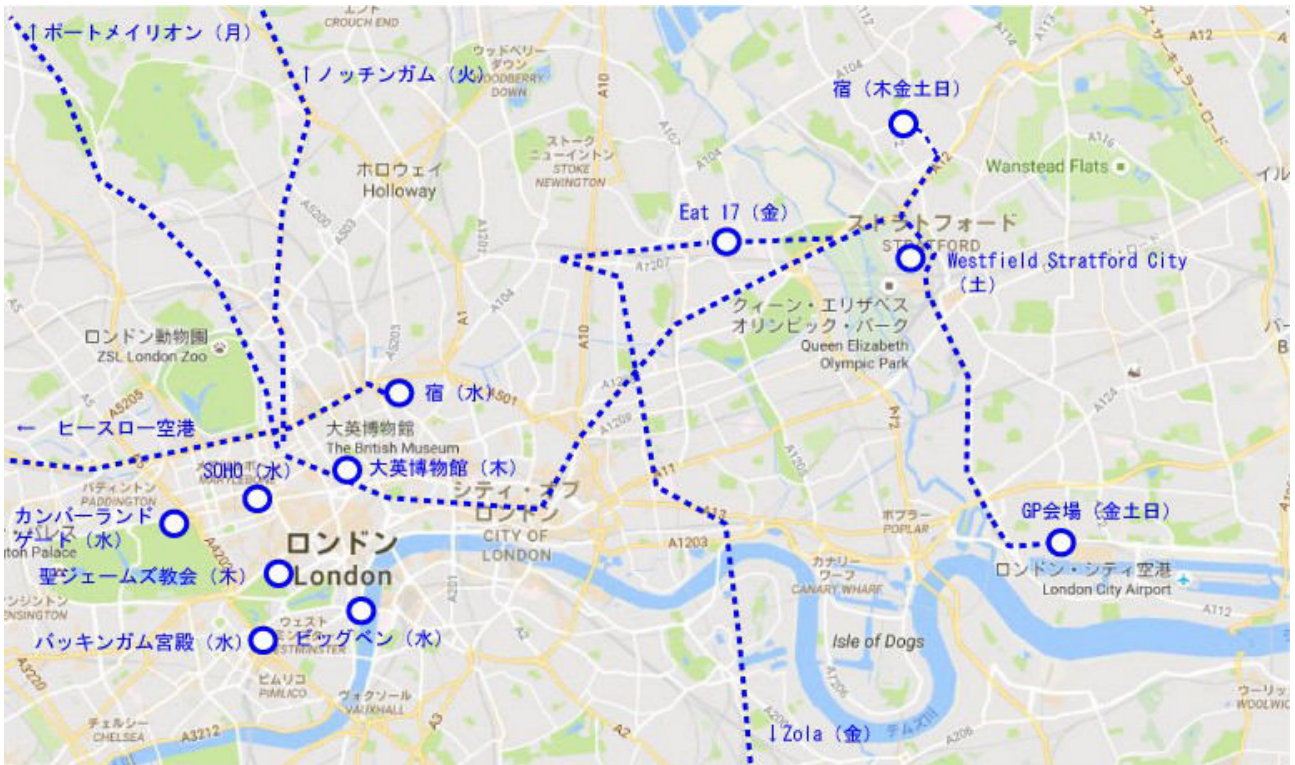
いよいよ帰国まで2時間を切りました。※ここからは日本時間で記します。
そして待つうちにほどなく、予定通りに13時15分に日本に到着しました。
特に書くほどのこともなく入国カードを提出して入国審査を通過し、荷物を回収。
荷物の中からSIMカードを回収して（実はずっと財布に入っていたのですが）、通信を
回復して女房に連絡しツイッターへのアクセスなども再開。

JR成田空港駅に移動して、30分ほど待って13時57分発のエアポート成田に乗車。
15時17分、新小岩着。
松屋めしで牛丼（日本のソウルフード）を味わって昼食ののちタクシーに乗車。16時、
狭くて散らかっている楽しい我が家に帰宅。
お家に帰るまでがGPであり、これで今回のGP ロンドン 2016 も終了しました。

（完）



主な訪問ポイントと移動ルート（地下鉄・列車）



Copyright: Google

GP ロンドン 2016 参加記 (v1.01)

発行：新小岩マジック <https://twitter.com/kondohi>

発行日：2016年12月7日 v1.00は2016年12月31日発行

印刷所：日光企画

本書の文章や写真などの無断転載を禁じます

筆者（ひろじ）について：

<https://twitter.com/kondohi> （ツイッター。最近はこちらメインです）

<http://otakutalker.diarynote.jp/> （ダイアリーノート。マジック関連はここで）